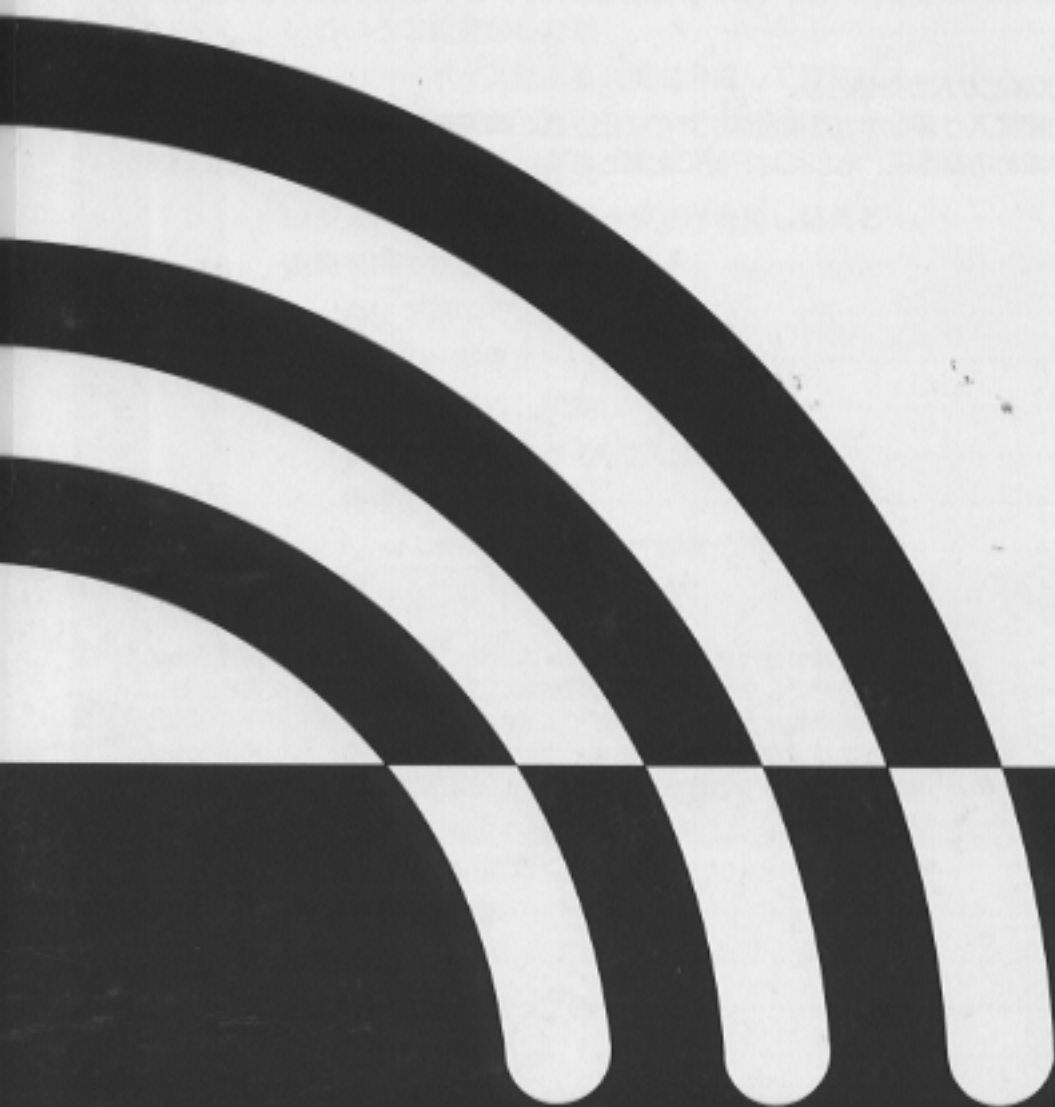


YAMAHA MUSIC DISK RECORDER

EL-30専用

MDR-10

取扱説明書



ごあいさつ

このたびは、ヤマハミュージックディスクレコーダーMDR-10をお買い求めいただきまして、誠にありがとうございます。

ヤマハミュージックディスクレコーダーMDR-10は、ヤマハが誇るデジタルテクノロジーを結集して完成させた演奏記憶装置です。ヤマハエレクトーンEL-30で弾いた演奏をフロッピーディスクに録音でき、後で自由に再生できます。EL-30の楽しみ方をさらに広げましょう。

本書では、EL-30を正しく、そして楽しくお使いいただけますよう、取り扱い方法をわかりやすく説明しています。ご使用前に、ご一読ください。

ご使用上の注意



MDR-10の内部や基板に、絶対ふれないで。

MDR-10の内部や基板にふれたり、改造や部品の取り外しは、絶対にしないでください。故障と思われる場合は、お買い求めの楽器店、もしくはP57に記載されているサービスセンターまでご連絡ください。



MDR-10の内部に水などが入った場合は。

誤って水や異物が内部に入ってしまった場合は、すぐにEL-30の電源を切ると共に、電源プラグを抜いた上で、お買い求めの楽器店、もしくはP57に記載されているサービスセンターまでご連絡ください。

音楽を楽しむエチケット



これは電子機械工業会「音のエチケット」キャンペーンのシンボルマークです。

楽しい音楽も時と場所によっては、大変気になるものです。隣近所への配慮を十分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまうことがあります。適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドホンを使用するのもひとつの方法です。お互いに心を配り、快適な生活環境を守りましょう。

目次

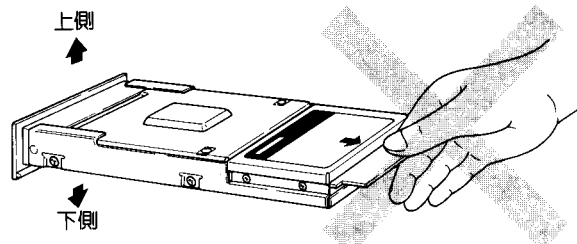
	MDR-10の取り付け方法	2
	各部の名称とはたらき	4
	MDR-10の機能	6
	操作の流れ	7
	デジタルディスプレイの表示の意味	8
	フロッピーディスクについて	9
	フロッピーディスクの入れかた	9
	フロッピーディスクの取り出しかた	9
	1枚のフロッピーディスクに記録できるデータ量	9
	フロッピーディスクのプロテクトタブ	10
	フロッピーディスクの取り扱いと保管について	10
操 作 方 法	ディスクをフォーマット(初期化)する	11
	レジストレーションデータの記録	13
	フロッピーディスクに記録したレジストレーションのデータを 再現させるときは	17
	演奏を録音する	18
	録音をやり直す(リトライ)	21
	いろいろな録音のしかた	22
	リードボイスによる演奏を分離して録音する	26
	キーボードパーカッションによるリズムを分離して録音する	29
	メモリー残量の確認	30
	レジストレーションのデータだけを差し替える	31
	演奏を再生する	33
	再生を途中で止める	34
	再生の一時停止	34
	再生の早送り、早戻し	35
	演奏だけを再生する(カスタム再生)	36
	特定のパート再生	37
	リードボイスを分離した録音の再生	38
	繰り返し再生	39
	再生のテンポ	43
録音時のテンポに戻す	44	
	曲をコピーする	45
	曲を削除する	47
付 録	未永くお使いいただくために	49
	MDR-10の仕様	50
	用語辞典	51
	おかしいな?と思ったら	53
	五十音索引	54
	アフターサービスと保証	56
	ヤマハ電気音響製品アフターサービス拠点	57

MDR-10の取り付け方法

番号順に取り付けを行ってください。

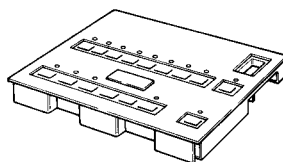
注
意

- MDR-10を取り付けたり、取り外したりする前に、必ずEL-30の電源コードを抜いてください。
- FDDユニットを上下逆に挿入しないでください。
- FDDユニットの基板にさわったり、汚したり、水気などを付けないようにしてください。

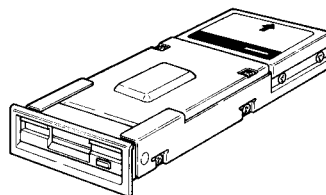


1

梱包品が3種類あるか確認します。



パネルユニット



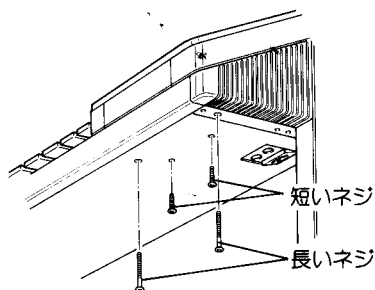
FDDユニット



フロッピーディスク
(3.5インチ、2DD)

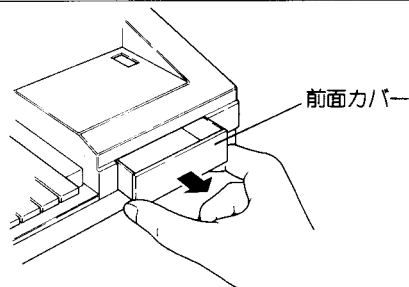
2

EL-30右側底面にある穴の空いているところのネジ4本を取り外します。



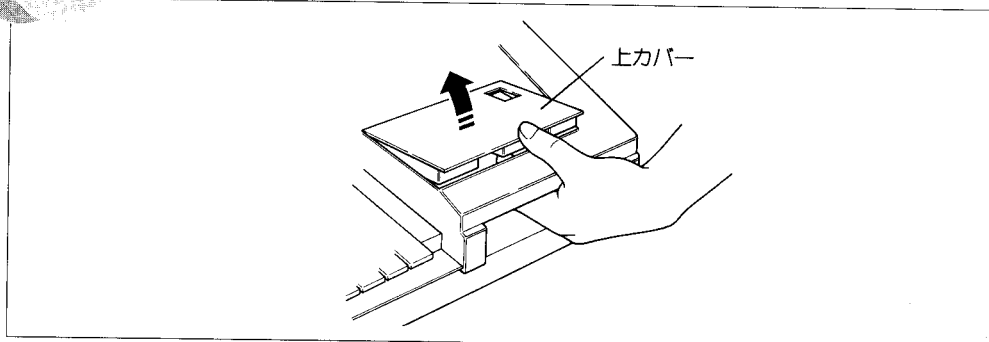
3

前面カバーの両端をつまんで取り出します。



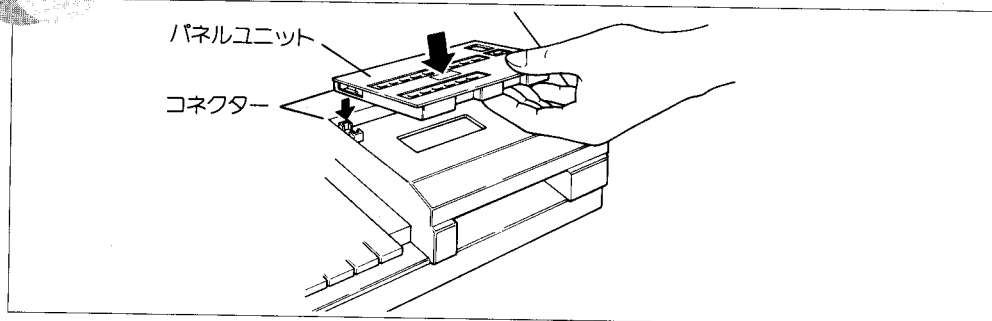
5

上カバーを持ち上げて取り外します。



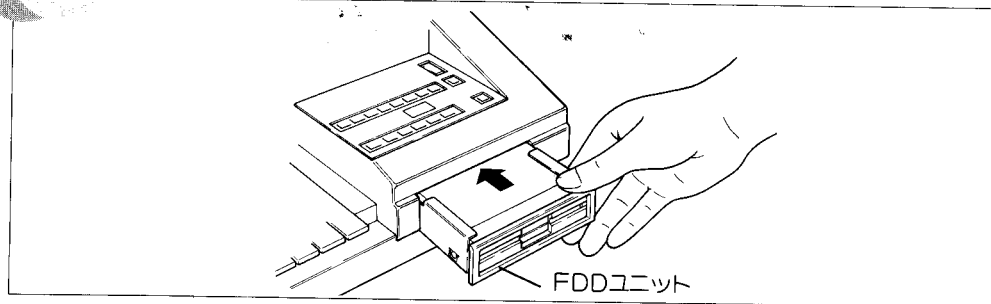
6

EL-30のコネクターにパネルユニットのコネクターがしっかり差し込まれるように、位置を合わせながらパネルユニットを上からはめ込みます。



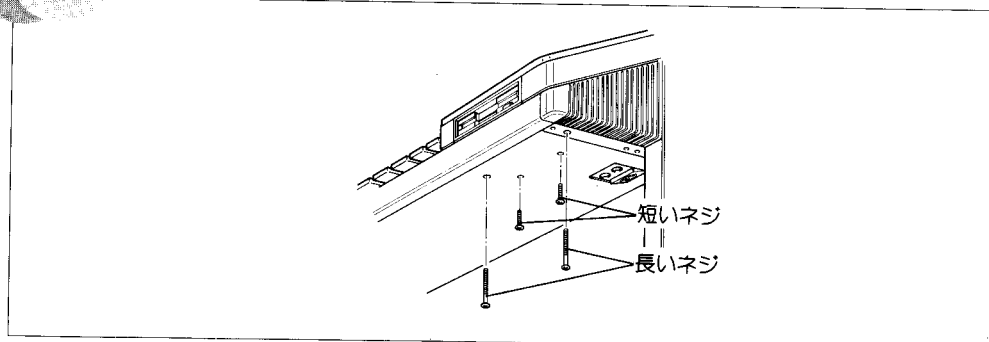
7

FDDユニットを前面より挿入します。EL-30の前面とFDDユニットの前面が水平になるまで(EL-30の基板接合部にFDDユニットの基板が差し込まれるまで)、しっかりと挿入してください。



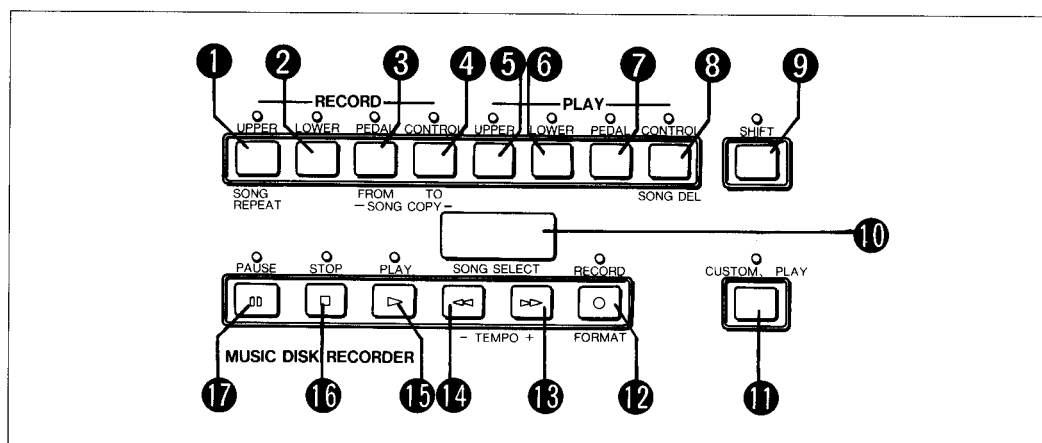
8

手順2で取り外したネジで、パネルユニットとFDDユニットを固定します。



これでMDR-10の取り付けができました。

各部の名称とはたらき



(レコードセクション)

- ①UPPER/SONG REPEAT(アッパー/ソングリピート)：二つの働きがあります。録音時にこのボタンの赤ランプが点灯していれば、上鍵盤の演奏が録音されます。また、SHIFT(シフト)ボタンを押しながらこのボタンを押すとリピート再生ができます。
- ②LOWER(ロワー)：録音時にこのボタンの赤ランプが点灯していれば、下鍵盤の演奏が録音されます。
- ③PEDAL/SONG COPY FROM(ペダル/ソングコピーフロム)：二つの働きがあります。録音時にこのボタンの赤ランプが点灯していれば、ペダル鍵盤の演奏が録音されます。SHIFT(シフト)ボタンを押しながらこのボタンを押すとコピー元のソングナンバーが選択できます。
- ④CONTROL/SONG COPY TO(コントロール/ソングコピートゥー)：二つの働きがあります。録音時にこのボタンの赤ランプが点灯していれば、エクスプレッションペダルなどのデータが記憶されます。SHIFT(シフト)ボタンを押しながらこのボタンを押すとコピー先のソングナンバーを選択できます。

(プレイセクション)

- ⑤UPPER(アッパー)：再生時または録音時にこのボタンの赤ランプが点灯していれば、録音した上鍵盤の演奏が再生されます。
- ⑥LOWER(ロワー)：再生時または録音時にこのボタンの赤ランプが点灯していれば、録音した下鍵盤の演奏が再生されます。
- ⑦PEDAL(ペダル)：再生時または録音時にこのボタンの赤ランプが点灯していれば、録音したペダル鍵盤の演奏が再生されます。
- ⑧CONTROL/SONG DEL.(コントロール/ソングデリート)：二つの働きがあります。再生時または録音時にこのボタンの赤ランプが点灯していれば、記録したエクスプレッションペダルなどのデータが再現されます。SHIFT(シフト)ボタンを押しながらこのボタンを押すと曲を削除できます。

- ⑨SHIFT(シフト)：このボタンを押している間は各ボタンの下に表示されている緑色の文字の機能に切り替わります。
- ⑩デジタルディスプレイ：ストップ状態ではソングナンバー、録音時にはメモリー残量、再生時には時間を表示します。その他、現在の状態を示す記号なども表示します。
- ⑪CUSTOM PLAY(カスタムプレイ)：演奏のみの再生または録音が始まります。
- ⑫RECORD/FORMAT(レコード/フォーマット)：二つの働きがあります。単独で押すと録音が始まります。SHIFT(シフト)ボタンを押しながらこのボタンを押すと、フロッピーディスクの初期化ができます。
- ⑬SONG SELECT/TEMPO+(ソングセレクト/テンポ+)：三つの働きがあります。単独で押すとソングナンバーを表す数字の値が大きくなります。SHIFT(シフト)ボタンを押しながらこのボタンを押すと、再生させるときのテンポが早くなります。また再生中に押すと、早送りができます。
- ⑭SONG SELECT/TEMPO-(ソングセレクト/テンポ-)：三つの働きがあります。単独で押すとソングナンバーを表す数字の値が小さくなります。SHIFT(シフト)ボタンを押しながらこのボタンを押すと、再生させるときのテンポが遅くなります。また再生中に押すと、早戻しができます。
- ⑮PLAY(プレイ)：ストップ状態で押すと、レジストレーションが送信され演奏の再生が始まります。RECORD(レコード)ボタンを押したあと、このボタンを押すと、録音が始まります。
- ⑯STOP(ストップ)：録音や再生をストップさせます。
- ⑰PAUSE(ポーズ)：再生中に押すと、再生が一時的に停止します。

MDR-10の機能

機能説明

MDR-10には次の機能があります。

フロッピーディスクの使用

- フロッピーディスクをフォーマット(初期化)する(P11参照)
- フロッピーディスクのメモリー残量をデジタルディスプレイで確認する(P30参照)

レジストレーションのデータをフロッピーディスクに記録する

- レジストレーションだけを記録する(P13参照)
- レジストレーションのデータだけを差し替える(P31参照)

エレクトーン演奏を録音、再生する

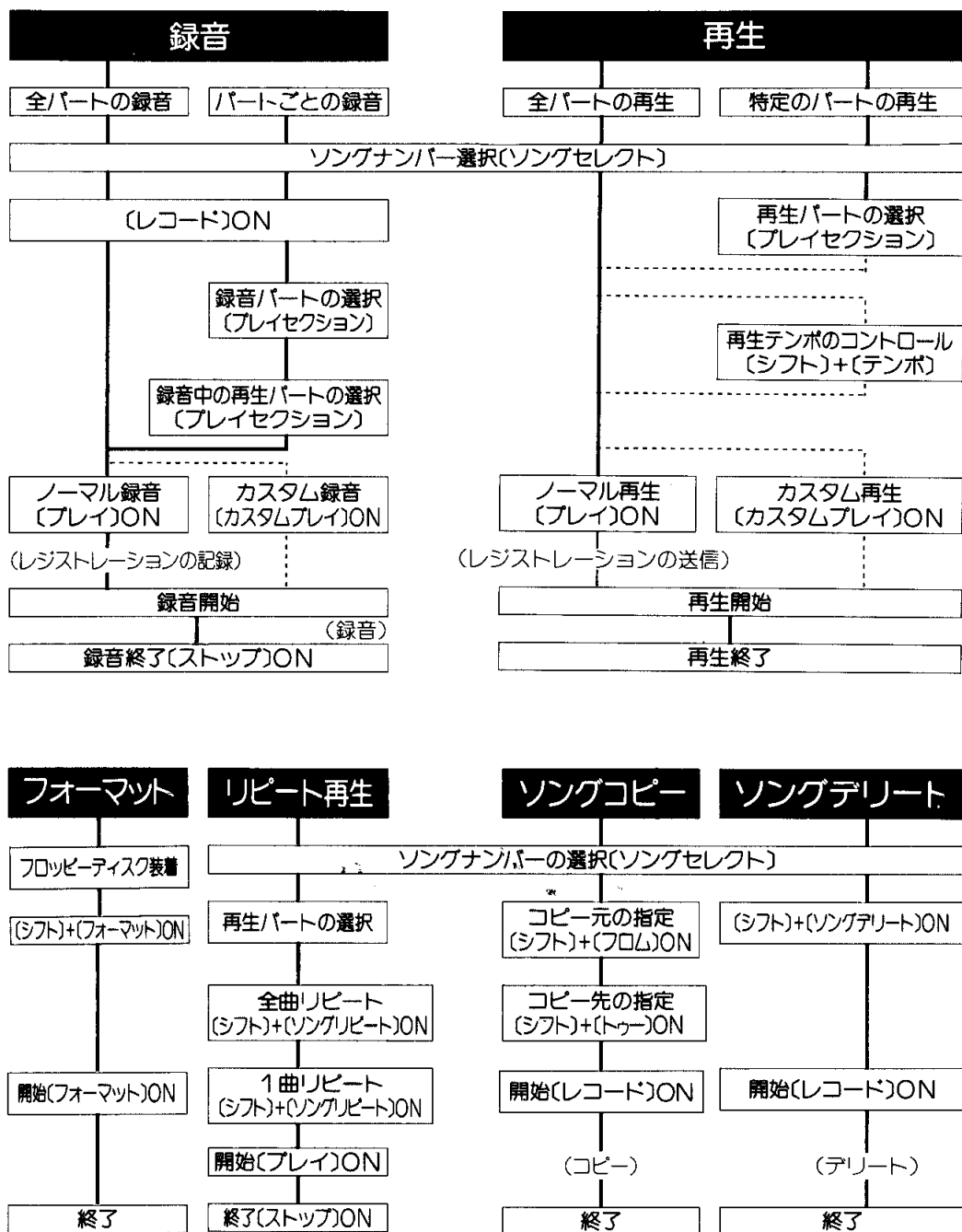
- 上鍵盤、下鍵盤、ペダル鍵盤の音をそれぞれ別に録音する(P22参照)
- エレクトーン演奏の録音を中断して、最初から録音し直す(P21参照)
- リードボイスの演奏だけを分離して録音、再生する(P26参照)
- キーボードパーカッションのリズムを録音する(P29参照)
- レジストレーションデータは再生せずに、演奏だけを再生する(P36参照)
- 再生中に一時停止をする再生中に早送りまたは早戻しをする(P34参照)
- 録音した演奏の中から、特定の鍵盤の演奏だけを再生する(P37参照)
- フロッピーディスクに録音した全ての曲または、特定の1曲だけを繰り返し再生する(P39参照)
- 録音した曲のテンポを変える(P43参照)
- テンポを変更した後、録音したときのテンポに戻す(P44参照)
- すでに録音した曲を別のソングナンバーにコピーする(P45参照)
- 録音してある不要になった曲を削除する(P47参照)

EL-50などで作成したディスクを使う

- 作ったリズムを再生する(EL-50などの取扱説明書参照)
- 設定した順序でリズムを再生させる(EL-50などの取扱説明書参照)
- 設定した順序でレジストレーションを呼び出す(P17参照)

操作の流れ

MDR-10には、①録音、②再生、③フォーマット、④リピート再生、⑤ソングコピー、⑥ソングデリートと大きく分けて6つの機能があります。それぞれの操作の流れは次の通りです。



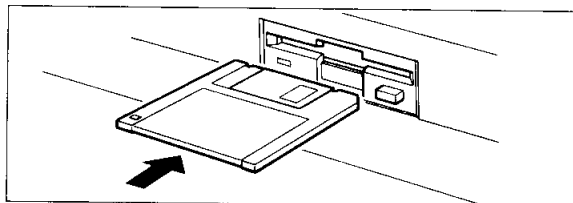
デジタルディスプレイの表示の意味

誤った操作をしたときや何らかのエラーが発生した場合は、デジタルディスプレイに下表のような記号が表示されます。表示の意味を理解して対処してください。

表示	表示の意味と対処方法
Inst	フロッピーディスクが入っていません。フロッピーディスクを入れてください。
Formt	フロッピーディスクが、まだフォーマットされていません。フォーマットしてください。
Protect	①フロッピーディスクが録音不可状態になっているため、録音、ソングコピー、ソングデリートができません。(STOP)(ストップ)ボタンを押して、フロッピーディスクを取り出し、ライトプロテクトタブを録音可能状態にセットしてください。 ②コピープロテクトのかかったフロッピーディスクを使っているとき、録音やソングコピー、ソングデリートをしようとすると、このメッセージが表示されます。
Full	①メモリー残量がなくなったため、録音、ソングコピーができません。不要のソングを削除するか、別のフロッピーディスクを入れてください。 ②全てのソングナンバーにデータが記録されているため、ソングコピーができません。(STOP)(ストップ)ボタンを押して、不要なソングを削除してください。
Empty	全てのソングナンバーにデータが記録されていないため、コピー元になるデータがなく、ソングコピーができません。(STOP)(ストップ)ボタンを押して、データを記録しているフロッピーディスクを入れてソングコピーをやり直してください。
Timeout	録音/再生中などにフロッピーディスクを取り出したため、エラーが発生しました。(STOP)(ストップ)ボタンを押して、フロッピーディスクを挿入して操作をやり直してください。
disc	このエレクトーンでは再生できないフロッピーディスクが入っています。(STOP)(ストップ)ボタンを押して、適切なフロッピーディスクを入れてください。
Lost	非常に多くの録音をしようとしたため録音できませんでした。(STOP)(ストップ)ボタンを押し、録音し直してください。
bad	フロッピーディスクに不良があるため、フォーマットできません。(STOP)(ストップ)ボタンを押して、別のフロッピーディスクを入れてフォーマットをやり直してください。
Error	内部通信に何らかのエラーが発生しました。(STOP)(ストップ)ボタンを押して、操作をやり直してください。
---	すでにデータが記録されているソングナンバーに録音しようとしたため、そのソングナンバーの左に「---」が表示されました。 ①記録されているデータを消去したくない場合は、(STOP)(ストップ)ボタンを押し、別のソングナンバーを選んでください。 ②記録されているデータに、新しいデータを追加記録する場合はもう一度(RECORD)(レコード)ボタンを押して操作を続けてください。
Prct	プロテクトのかかったフロッピーディスクを使っていることを示しています。再生はできませんが、記録はできません。下2桁がソングナンバーを示しています。

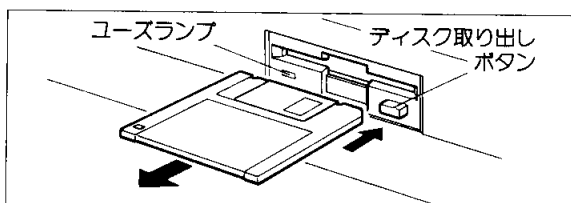
フロッピーディスクについて

■フロッピーディスクの入れかた



ディスク挿入口にフロッピーディスクのラベルを上にしてカチャツという音がするまで水平に差し込みます。

■フロッピーディスクの取り出しかた



ユーズランプが消灯していて、MDR-10の(STOP)(ストップ)ボタンが点灯していることを確認してから、ディスク取り出しボタンを押します。

エレクトーンに記憶させているデータをフロッピーに記録しているときや、フロッピーディスクに記録しているデータをエレクトーンに読み込ませているときはユーズランプが点灯しています。

このときディスクを取り出すと、データが消えてしまいますので、注意してください。

フロッピーディスクをFDDユニットから取り出す時、以下の点にご注意ください。

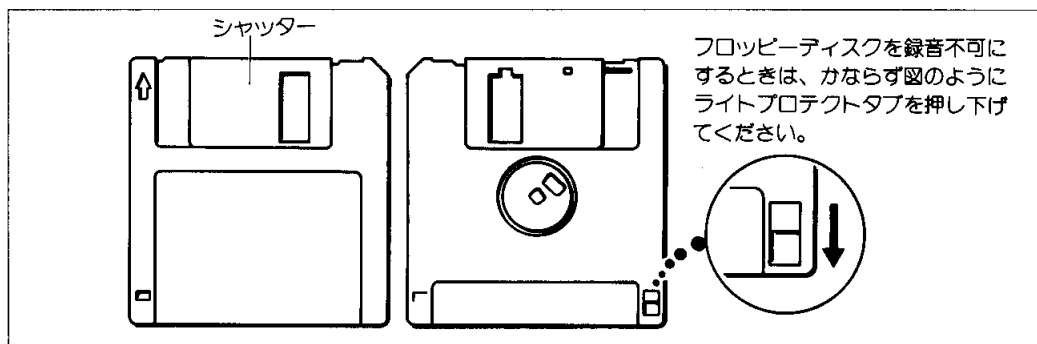
- ・ディスク取り出しボタンをしっかりと正確に押し、フロッピーディスクが完全に出たのを確認し、取り出して下さい。
- ・ディスク取り出しボタンを中途半端に押したり、あわてて押すと、取り出し機構が正常に作動せず、フロッピーディスクが途中でひっかかり、取り出せなくなる場合があります。無理にフロッピーディスクを取り出そうとすると、ディスクがこわれたり、MDR-10が故障したりする原因になります。
- ・ディスク取り出しボタンが中途半端な状態になったり、フロッピーディスクが完全に出ない場合は、もう一度ディスク取り出しボタンをしっかりと押しなおすか、またはフロッピーディスクをMDR-10に完全に押し込んで、再度ディスク取り出しボタンをしっかりと正確に押しなおして、取り出してください。

■1枚のフロッピーディスクに記録できるデータ量

1枚のフロッピーディスクに録音できる曲数(ソングナンバー)は2HD、2DDともに40曲までです。しかし、ひとつのソングナンバーに記録できるデータ量は2HDのフロッピーの方が多くなります。長い曲を記録するときは2HDのフロッピーの方が適しています。

■フロッピーディスクのプロテクトタブ

フロッピーディスクには、録音不可の状態にするツメ(プロテクトタブ)があります。これは、以前録音した演奏を誤って消去するのを防ぐためにあります。通常は録音可能な状態にしておいてください。



フロッピーディスクとは磁気によってデータを記録する補助記憶装置です。MDRでは3.5インチ2DDまたは2HDフロッピーディスクを使用します(付属の録音用フロッピーディスクは2DDです)。

■フロッピーディスクの取り扱いと保管について

フロッピーディスクの中には、情報を記録する磁性体が入っています。次の点に注意して取り扱いや保管をしてください。

- 磁気を帯びたもの(テレビやスピーカーなど)には近づけないでください。
- 落としたり、強い力を加えないでください。
- 物をのせたり、折り曲げたりしないでください。
- シャッターを開けたり、磁性体に手を触れたりしないでください。
- 内部のディスク表面に手を触れないでください。
- 内部に水やホコリが入らないようにしてください。
- 必ず、専用のケースに入れて保管してください。
- 保管する場合は直射日光のあたる場所や、高温または低温の場所に置かないでください。
- 持ち運ぶ際は、市販の専用ケースに入れてください。まれに、衣類などの静電気によってフロッピーディスクのデータが消えてしまうことがあります。
- シャッターが上下に開いているような変形したフロッピーディスクは使用しないでください。MDR-10が壊れたり、フロッピーディスクが取り出せなくなることがあります。

ディスクをフォーマット(初期化)する

機能説明

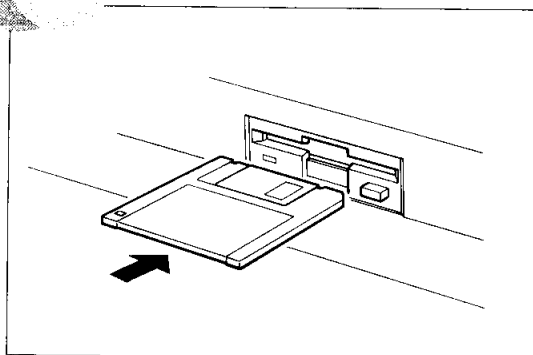
付属および市販のフロッピーディスクは、そのままの状態では使用できません。「フォーマット(初期化)」をしてMDR-10で使用可能な状態にします。

操作方法

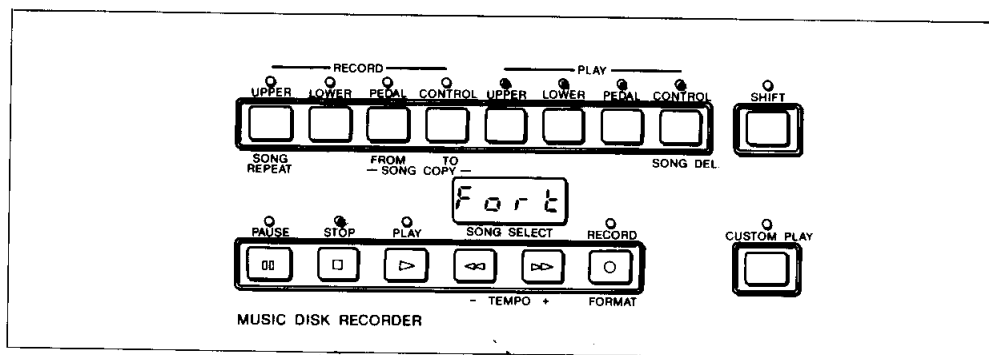
2DD、2HDともに操作方法は同じです。

1

未使用のフロッピーディスクを図のように挿入口に入れます。

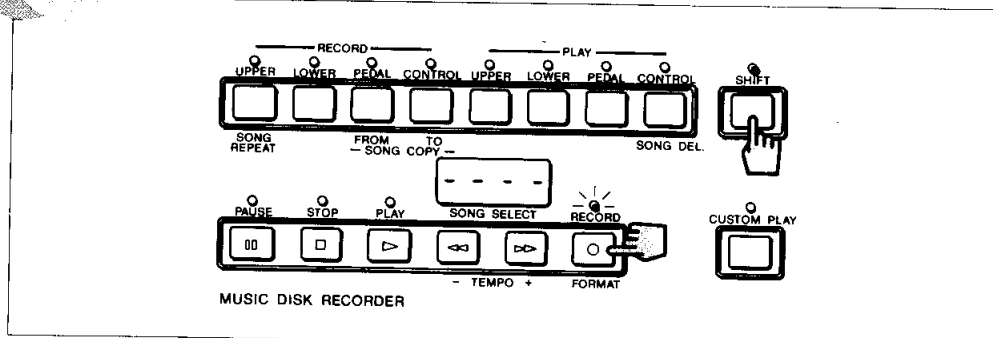


- ディスクが挿入されるとガチャツという音がします。



2

(SHIFT)(シフト)ボタンを押しながら、(RECORD/FORMAT)(レコード/フォーマット)ボタンを押します。

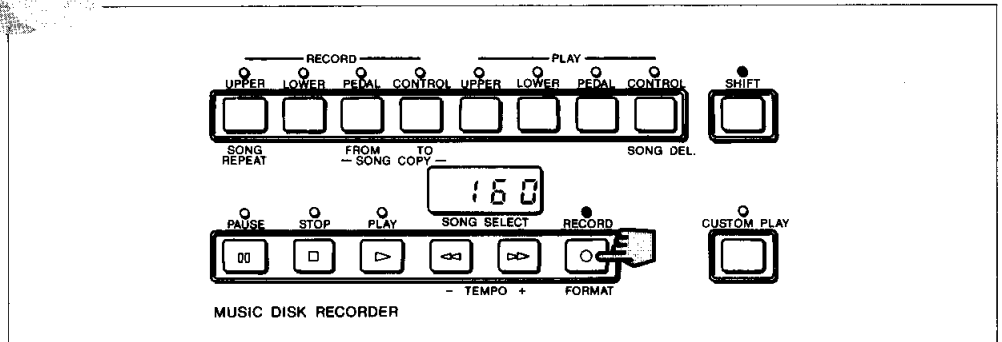


- デジタルディスプレイに「---」が表示され、フォーマットできる状態になったことを示します。
- (RECORD/FORMAT)(レコード/フォーマット)ボタンの緑ランプが点滅します。

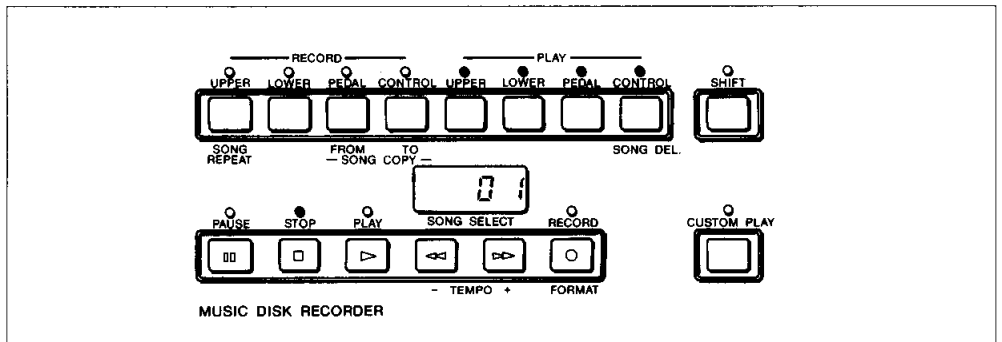
ディスクをフォーマット(初期化)する

3

(RECORD/FORMAT)(レコード/フォーマット)ボタンを押します。



- (RECORD/FORMAT)(レコード/フォーマット)ボタンの緑ランプが点滅から点灯に変わり、フォーマットが開始されます。



- フォーマットが終了すると、デジタルディスプレイに、ソングナンバー「01」が表示されます。
- (RECORD/FORMAT)(レコード/フォーマット)ボタンのランプが消えます。

これで、フロッピーディスクがMDR-10で使用できる状態になりました。

注
意

- フロッピーディスクが未使用のものかどうか分からない場合は、フォーマットする前に確認してください。録音済みのフロッピーディスクを誤ってフォーマットすると、すでに記録されていたデータが失われてしまいます。(RECORD/FORMAT)(レコード/フォーマット)ボタンを押してみて、ソングナンバーの左に「- - 0 !」が表示されていれば、データが記録されています。
- MDR-10またはEL-50、EL-70、EL-90用としてフォーマットしていないフロッピーディスクを入れて操作すると、デジタルディスプレイに「Fort」が表示されます。これはフォーマットするように促すメッセージです。
- EL-50などのレジストレーションメニューディスク、ボイスディスクはフォーマットできません。

レジストレーションデータの記録

機能説明

レジストレーションメモリーボタンに記録したレジストレーションデータを、一括してフロッピーディスクに記録します。

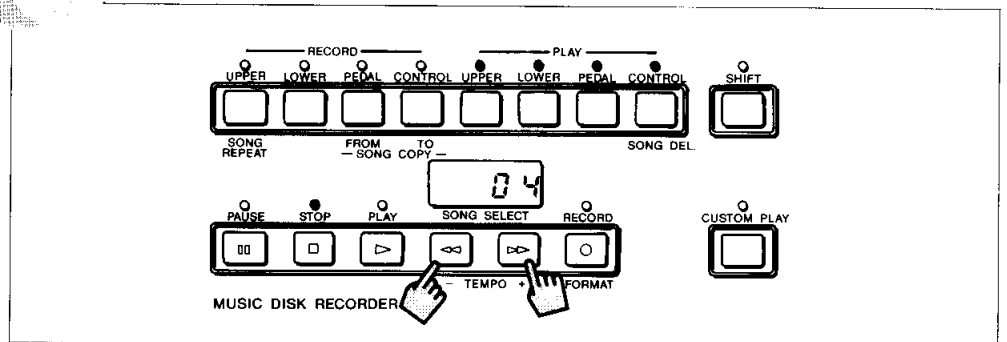
操作方法

MDR-10のボタンとEL-30の〔M./TO DISK〕(メモリートゥーディスク)ボタンの両方を使う方法と、MDR-10のボタンだけを使う方法があります。

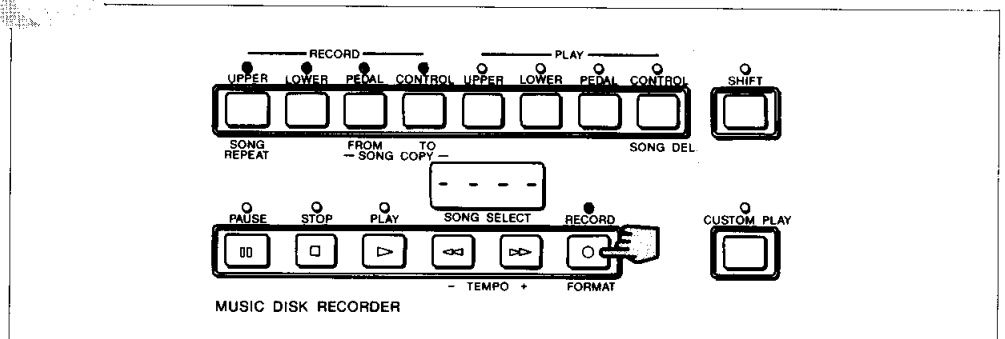
MDR-10ボタンと〔M./TO DISK〕(メモリートゥーディスク)ボタンの両方を使う方法

1 レジストレーションデータをレジストレーションメモリーボタンに記憶させておきます。

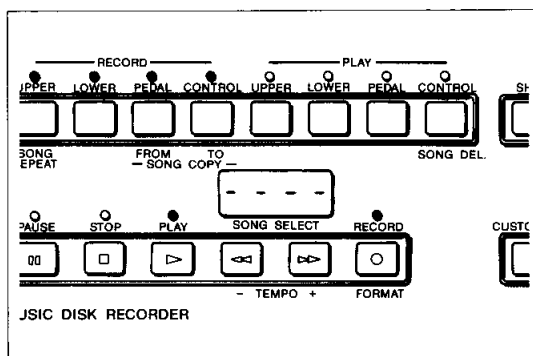
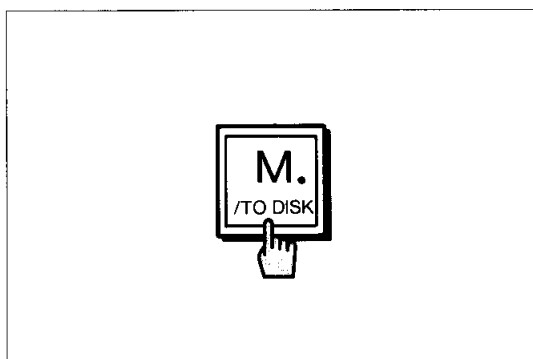
2 〔SONG SELECT〕(ソングセレクト)の〔◀◀〕〔▶▶〕ボタンを押して、レジストレーションデータを記録したいソングナンバーを選びます。



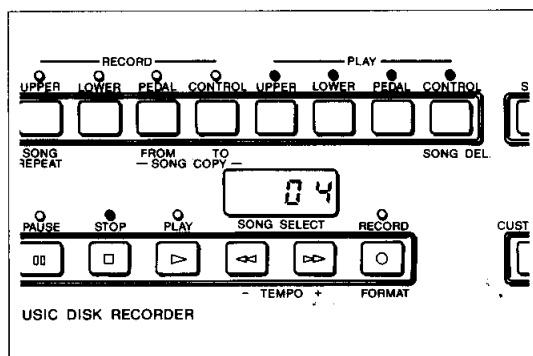
3 MDR-10の〔RECORD/FORMAT〕(レコード/フォーマット)ボタンを押しながら、〔M./TO DISK〕(メモリートゥーディスク)ボタンを押します。



- 〔RECORD/FORMAT〕(レコード/フォーマット)ボタンのランプが点灯します。
- 〔RECORD/FORMAT〕(レコード/フォーマット)ボタンを押したときソングナンバーの左に〔---〕が表示され点滅していたら、すでにデータが記録されていることを意味しています。データを消したくない場合は、別のソングナンバーを選んでください。また、記録されているデータを消して、別のデータを記録したい場合は、もう一度〔RECORD/FORMAT〕(レコード/フォーマット)ボタンを押して、操作を続けてください。



- ディスプレイでは(-----)が左から右に走行します。



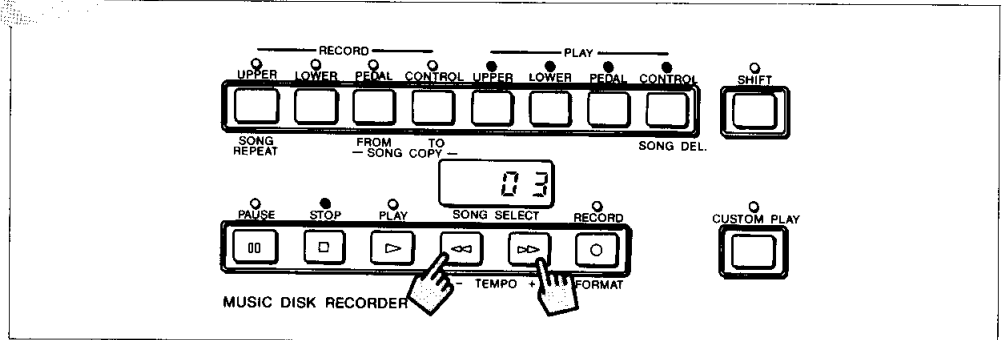
- 記録が終わると、ディスプレイの表示がソングナンバーに戻ります。

これで、レジストレーションデータをフロッピーディスクに記録できました。

MDR-10のボタンだけを使う方法

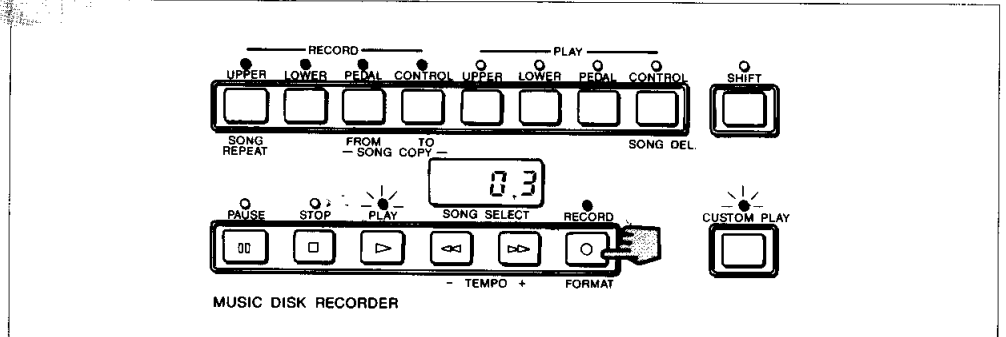
1 レジストレーションデータをレジストレーションメモリーボタンに記憶させておきます。

2 (SONG SELECT)(ソングセレクト)の(◀◀)(▶▶)ボタンを押して、レジストレーションデータを記録したいソングナンバーを選びます。



- ディスプレイに、選んだソングナンバーが表示されます。

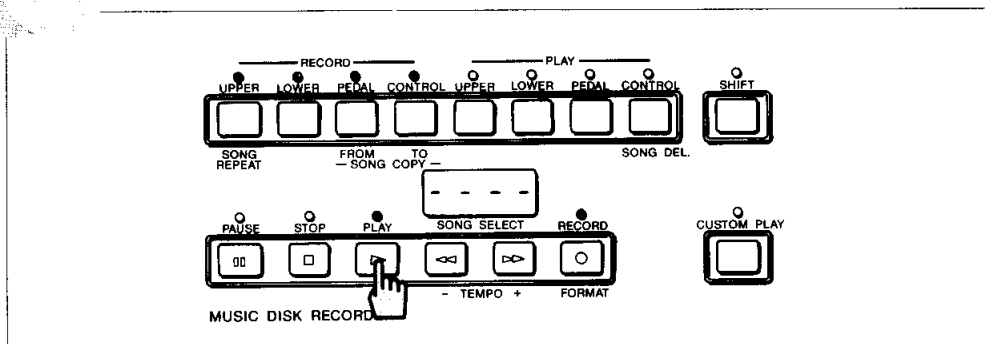
3 (RECORD/FORMAT)(レコード/フォーマット)ボタンを押します。



- (PLAY)(プレイ)ボタンと(CUSTOM PLAY)(カスタムプレイ)ボタンのランプが点滅し、(RECORD/FORMAT)(レコード/フォーマット)ボタンのランプが点灯します。
- ソングナンバーの左に(--)が表示され点滅していたら、すでにデータが記録されていることを意味しています。データを消したくない場合は、別のソングナンバーを選んでください。記録済みのデータを消して別のデータを記録したい場合は、もう一度(RECORD/FORMAT)(レコード/フォーマット)ボタンを押します。

4

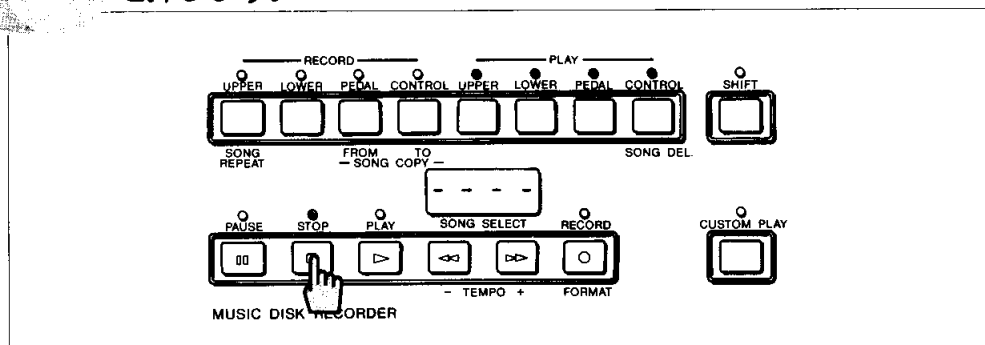
(PLAY)(プレイ)ボタンを押します。



- デジタルディスプレイの(-----)が走行します。これは、レジストレーションのデータが記録されている途中であることを示しています。

5

(-----)が走行しているうちに、(STOP)(ストップ)ボタンを押します。



- デジタルディスプレイの(-----)が点滅を始めます。記録が終了すると、自動的にストップします。

注意

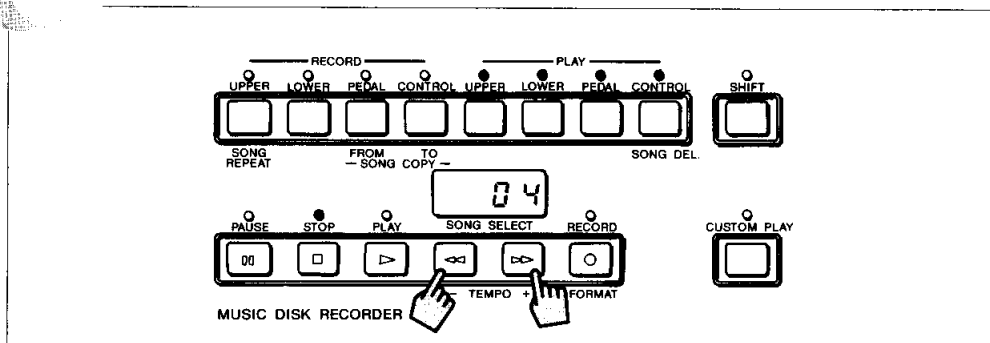
- 新たにデータを記録させるときは、必ずデジタルディスプレイの表示を確認してください。ソングナンバーの左に(-----)が表示され、点滅しているにもかかわらず、そのまま操作を続けると、新しいデータは記録されますが、以前に記録したデータは消えてしまいますので注意してください。この方法はレジストレーションのデータだけでなく、必要のない空の演奏データが入る場合があります。
- 大切な情報を記憶させたフロッピーディスクは、万一のトラブルに備えて、他のフロッピーディスクにも情報を記憶させて、予備のフロッピーディスクを作らようにしましょう。

これで、MDR-10のボタンだけで、レジストレーションメモリーをフロッピーディスクに記録できました。

■フロッピーディスクに記録したレジストレーションのデータを再現させるときは

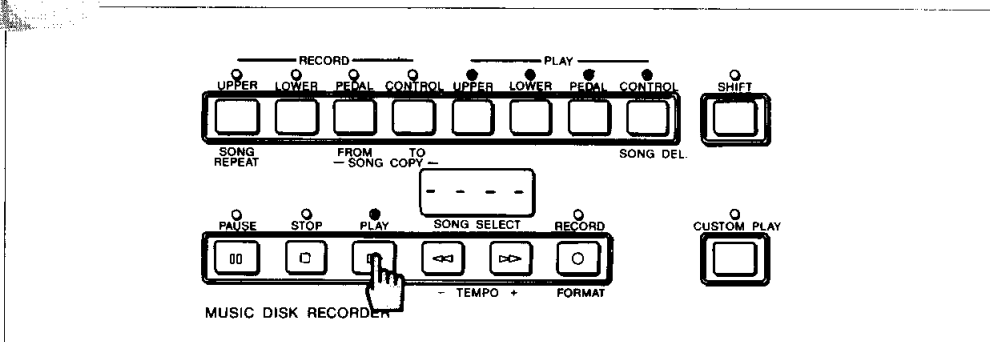
操作方法

- 1 (SONG SELECT)(ソングセレクト)の(◀◀)(▶▶)ボタンを使って、レジストレーションデータを記録したソングナンバーを選びます。

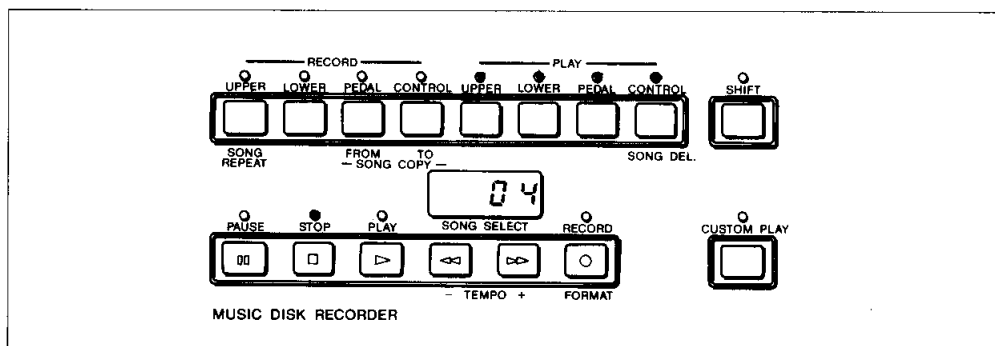


- ディスプレイに、選んだソングナンバーが表示されます。

- 2 (PLAY)(プレイ)ボタンを押します。



- デジタルディスプレイの(---)が右から左に走行します。これは、記録したレジストレーションのデータがエレクトーンに読み込まれていることを示しています。



- 再生が終了すると、ストップ状態に戻ります。

これで、フロッピーディスクに記録していたレジストレーションデータがエレクトーンに読み込まれました。

演奏を録音する

機能説明

通常のエレクトーン演奏の録音やレジストレーションのデータの記録ができます。

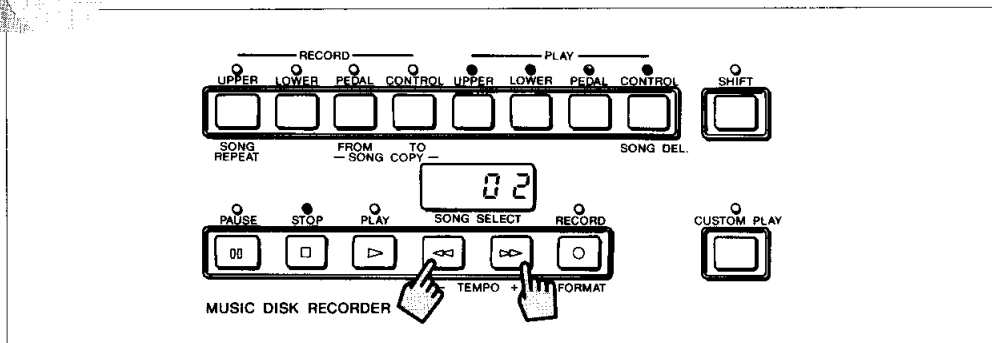
操作方法

1

演奏に使用するレジストレーションを、レジストレーションメモリーに必要なだけ記憶させます。

2

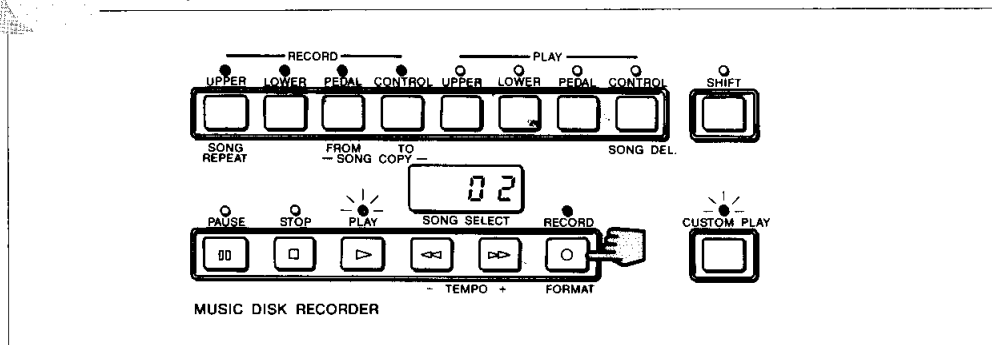
〔SONG SELECT〕(ソングセレクト)ボタンを押して、録音したいソングナンバーを選びます。



- ソングナンバーは1～40番まであります。
〔SONG SELECT〕(ソングセレクト)ボタンを押して選びます。

3

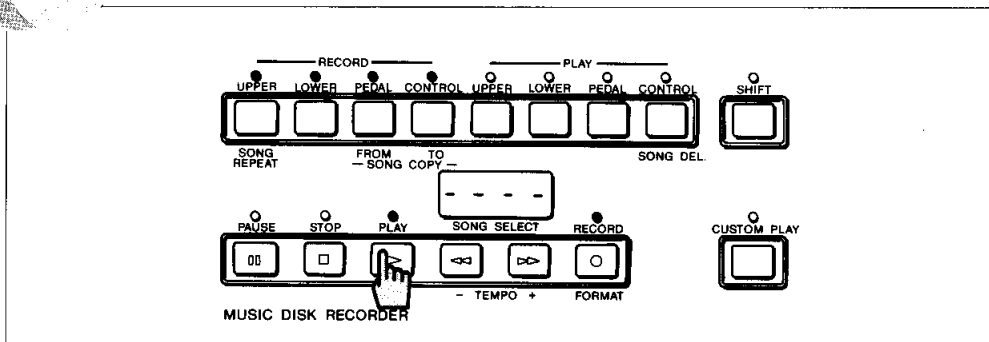
〔RECORD/FORMAT〕(レコード/フォーマット)ボタンを押します。



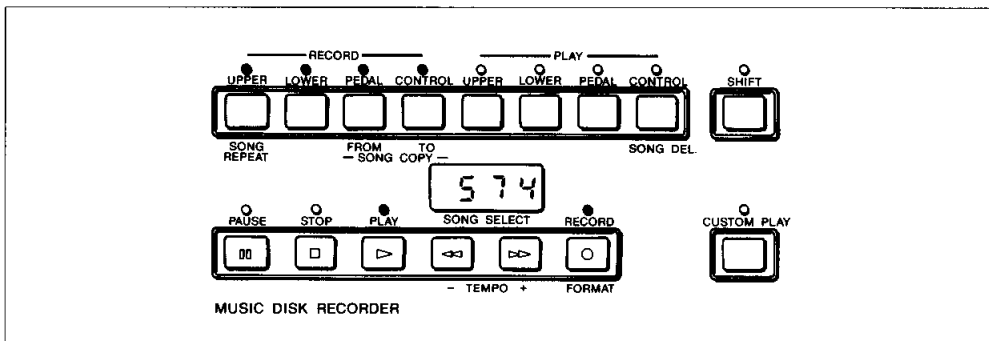
- 〔RECORD/FORMAT〕(レコード/フォーマット)ボタンの赤ランプが点灯し、録音できる状態になったことを示します。このとき、〔PLAY〕(プレイ)ボタンと〔CUSTOM PLAY〕(カスタムプレイ)ボタンのランプは赤く点滅します。
- レコードセクションでは、すべてのボタンのランプが点灯しています。これはすべての鍵盤の演奏が録音できる状態であることを示しています。各ボタンの機能についてはP22の「いろいろな録音のしかた」で説明します。



4 (PLAY)(プレイ)ボタンを押します。



- (PLAY)(プレイ)ボタンが点灯し、デジタルディスプレイでは(----)が左から右へ走行します。これは現在エレクトーンが記憶しているレジストレーションのデータがディスクに記録されていることを示します。



- レジストレーションの記録が終了すると、デジタルディスプレイはメモリー残量表示に変わります。



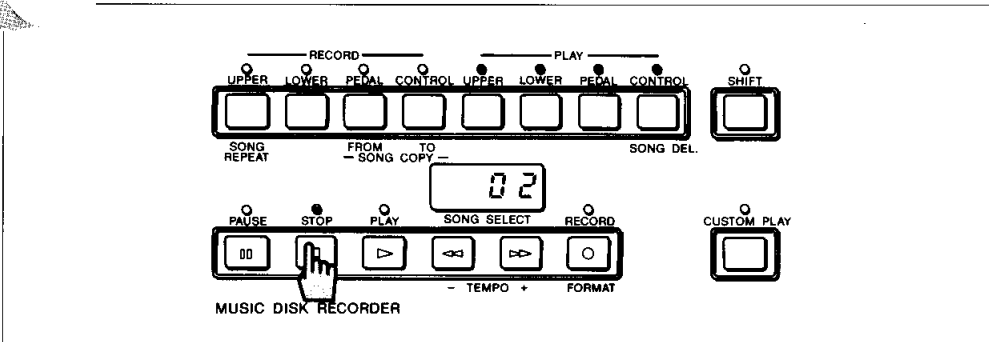
5 最初に使うレジストレーションメモリーのナンバーボタンを押します。



6 演奏を開始します。



7 演奏が終了したら、(STOP)(ストップ)ボタンを押します。



- (STOP)(ストップ)ボタンを押すと、(RECORD/FORMAT)(レコード/フォーマット)ボタンと(PLAY)(プレイ)ボタンの赤ランプが消え、ストップ状態に戻ります。

これで、演奏が録音できました。

♪ 操作のポイント

- 通常の状態の録音では、エレクトーンが記憶しているレジストレーションのデータを、録音開始時に記録するようになっています。

- 注**
- 再生中は絶対に、電源を切ったり、ディスク取り出しボタンを押したりしないでください。
 - デジタルディスプレイのメモリー残量が〔008〕以下になると、メモリー残量表示が点滅します。〔000〕になる前に、〔STOP〕(ストップ)ボタンを押して、録音を中止してください。
 - 選択したソングナンバーにすでにデータが記録されている場合は、〔RECORD/FORMAT〕(レコード/フォーマット)ボタンを押すと、デジタルディスプレイの二桁に〔--〕が表示され、ソングナンバーとともに赤く点滅します。次のように対処してください。
- 意**
- ①別のソングナンバーに録音する場合：〔SONG SELECT〕(ソングセレクト)ボタンを押して、ソングナンバーを変更する。
 - ②現在のソングナンバーに録音する場合：現在記録されているデータを消してしまってもいい場合は、削除したうえで録音する。
(削除の方法は)P45をご覧ください。

こんなこともできる

- レジストレーションのデータをディスクに記憶させないで、すぐに演奏の情報だけを録音したい場合は、〔RECORD/FORMAT〕(レコード/フォーマット)ボタンを押してから、〔CUSTOM PLAY〕(カスタムプレイ)ボタンを押してください。

■録音をやり直す(リトライ)

機能説明

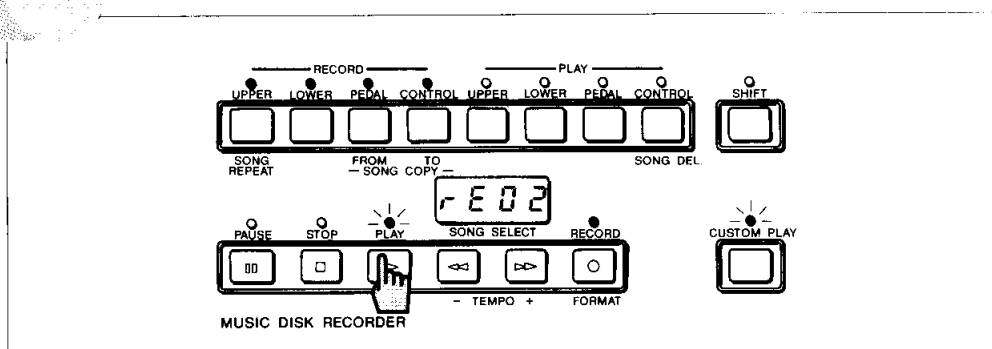
録音の途中でミスをしたときなどに録音をはじめからやり直すことができます。

操作方法

以下の「リトライ機能」を使うと、一度ソングナンバーのデータを削除するなどの操作をしなくても、簡単に録音のやり直しができます。

1

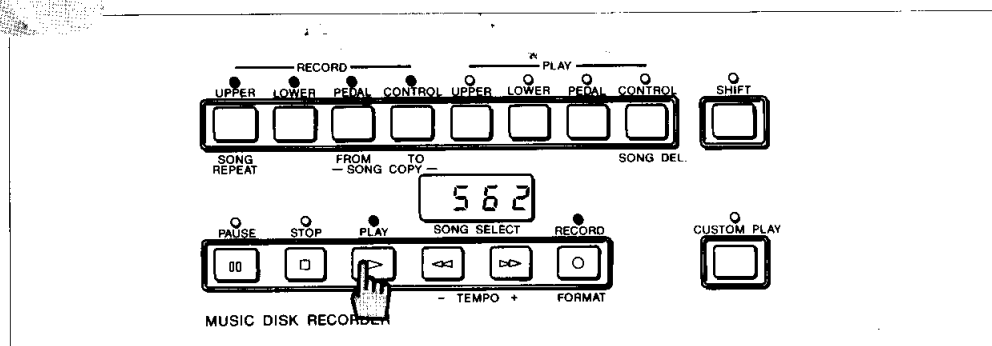
録音の途中で〔PLAY〕(プレイ)ボタンを押します。



- 録音がストップし、曲の先頭に戻ります。
- デジタルディスプレイの左二桁には「rE」(リトライ)が表示され、〔PLAY〕(プレイ)ボタンと〔CUSTOM PLAY〕(カスタムプレイ)ボタンの赤ランプが点滅します。

2

再び〔PLAY〕(プレイ)ボタンを押します。



- 〔PLAY〕(プレイ)ボタンの赤ランプが赤く点灯し、デジタルディスプレイにはメモリー残量が表示されます。

3

演奏をします。

- 演奏が録音されます。

これで、録音をはじめからやり直すことができました。

いろいろな録音のしかた

エレクトーン演奏の録音方法を紹介します。目的によっていろいろなパターンを試してみてください。

■鍵盤ごとに録音する

機能説明

エレクトーンの演奏を各鍵盤ごとに録音することができます。

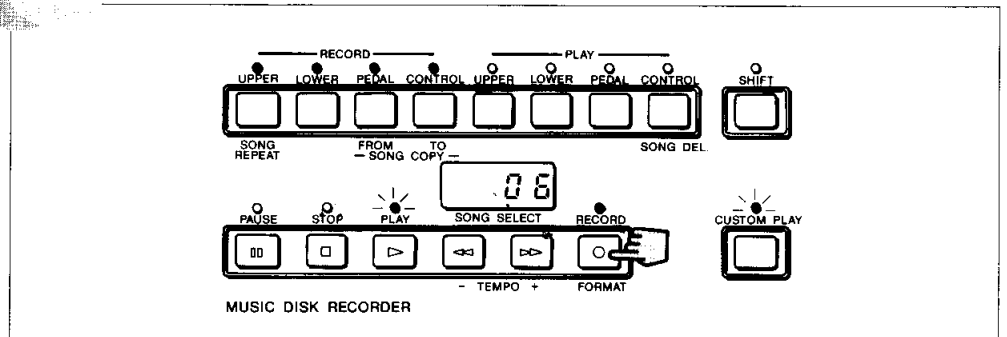
録音する鍵盤の選択はレコードセクションとプレイセクションで行います。レコードセクションとプレイセクションにはそれぞれ4つのパートがあります。UPPERは上鍵盤、LOWERは下鍵盤、PEDALはペダル鍵盤に対応しています。CONTROLはエクスプレッションペダルやレジストレーションメモリーの切り替えなどを記録するためのパートです。

操作方法

伴奏を録音した後で、上鍵盤のメロディーを録音する例を説明します。

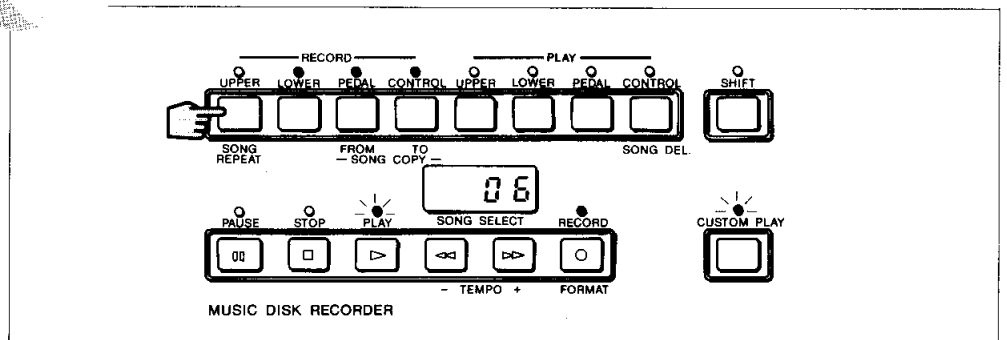
(まず下鍵盤、ペダル鍵盤による伴奏を録音します)

- 1 伴奏とメロディーを演奏するためのレジストレーションをレジストレーションメモリーに記憶させます。
- 2 データが記録されていないソングナンバーを選びます。
- 3 (RECORD/FORMAT)(レコード/フォーマット)ボタンを押します。



- レコードセクションでは、全てのボタンが点灯しています。これは全ての鍵盤が録音できる状態であることを示しています。
- (PLAY)(プレイ)ボタンと(CUSTOM PLAY)(カスタムプレイ)ボタンが点滅します。

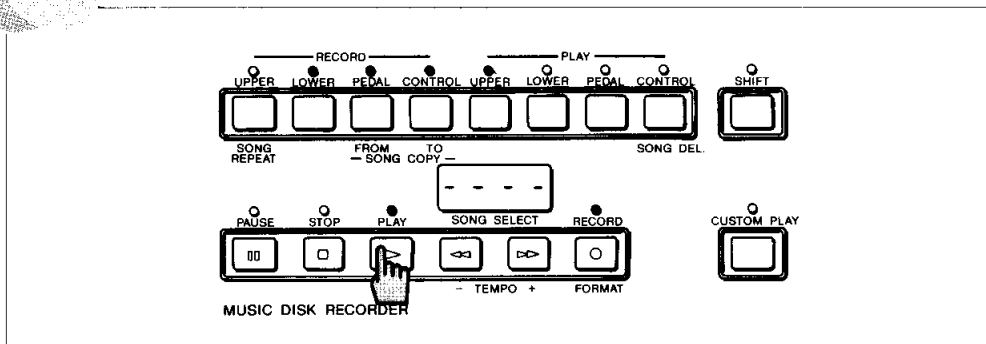
- 4 伴奏を録音するために、レコードセクションの(UPPER/SONG REPEAT)(アッパー/ソングリピート)ボタンを押してランプを消します。



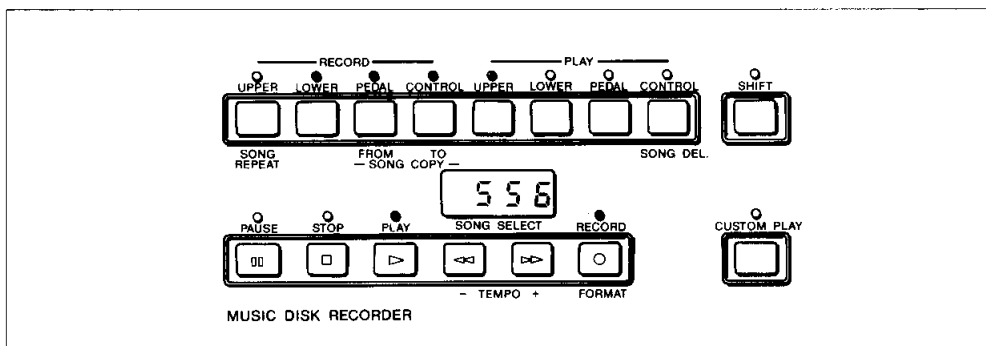
- レコードセクションの(LOWER)(ロワー)ボタン、(PEDAL)(ペダル)ボタン、(CONTROL)(コントロール)ボタンのランプが点灯します。
- プレイセクションの(UPPER)(アッパー)ランプが点灯します。

5

〔PLAY〕(プレイ)ボタンを押します。



- 〔PLAY〕(プレイ)ボタンの赤ランプが点灯し、レジストレーションデータが記録されます。
- 記録している間、デジタルディスプレイでは(----)が走行します。



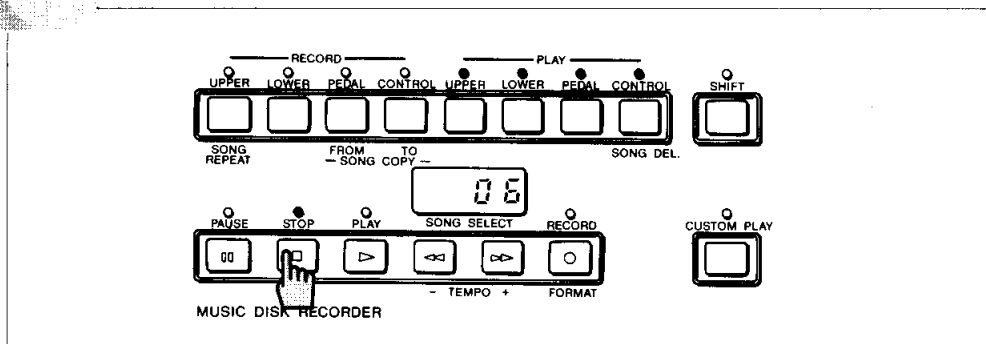
- レジストレーションデータの記録が終了すると、デジタルディスプレイはメモリ残量表示に変わります。

6

下鍵盤、ペダル鍵盤で伴奏します。

7

録音が終了したら、〔STOP〕(ストップ)ボタンを押します。



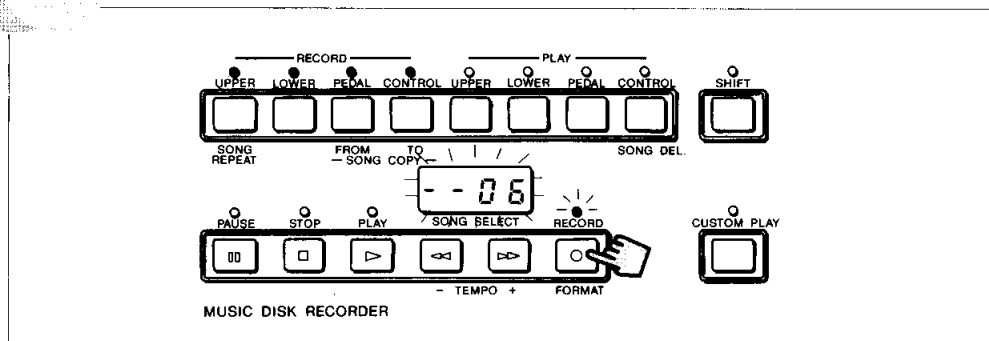
- デジタルディスプレイにはソングナンバーが表示されます。

(次に上鍵盤のメロディー演奏を録音します。)

メロディー演奏を録音するときは、再生中の伴奏をよく聴いて、タイミングよくメロディー演奏を開始してください。リズムのイントロを録音しておいた場合は、まず最初にイントロが発音します。弾きはじめのタイミングをうまくとってください。

8

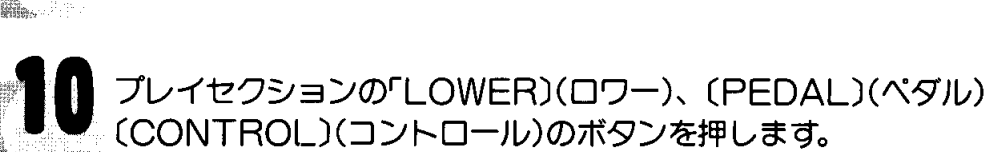
(RECORD/FORMAT)(レコード/フォーマット)ボタンを押します。



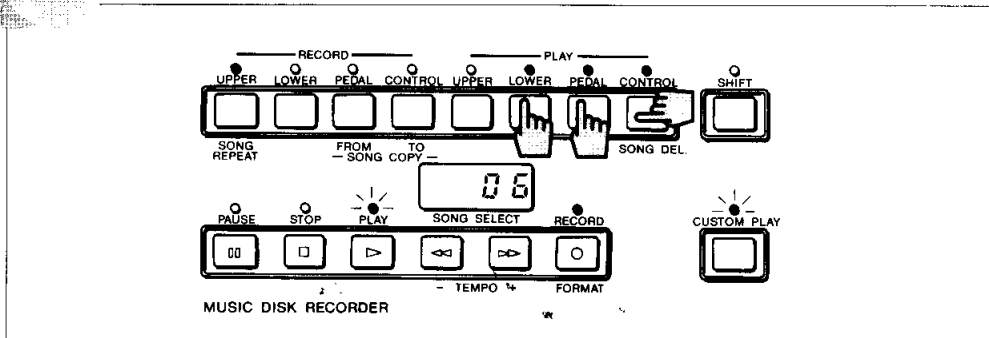
- すでに伴奏は録音済みなので、デジタルディスプレイの左側に「--」が表示され、ソングナンバーとともに赤く点滅します。

9

もう一度(RECORD/FORMAT)(レコード/フォーマット)ボタンを押します。



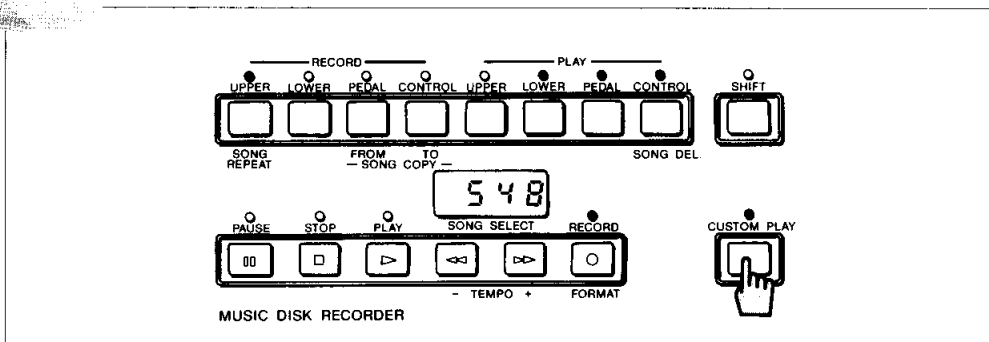
10 プレイセクションの「LOWER)(ロワー)、(PEDAL)(ペダル)、(CONTROL)(コントロール)のボタンを押します。



- プレイセクションの(LOWER)(ロワー)、(PEDAL)(ペダル)、(CONTROL)(コントロール)ボタンの赤ランプが点灯します。
- レコードセクションの(LOWER)(ロワー)、(PEDAL)(ペダル)、(CONTROL)(コントロール)ボタンのランプは自動的に消灯します。

11

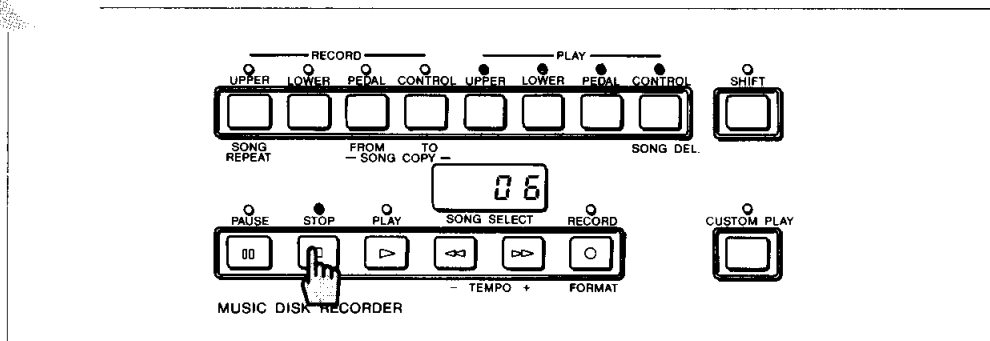
(CUSTOM PLAY)(カスタムプレイ)ボタンを押します。



- デジタルディスプレイにメモリー残量が表示されます。
- すでに録音済みの伴奏と、エクスプレッションが再生されます。
- このときレコードセクションの(UPPER)(アッパー)ボタンが赤く点灯しているかどうかを確認してください。

12 エレクトーンの上鍵盤を弾いて、メロディーの録音を開始します。

13 メロディーの録音が終了したら、〔STOP〕(ストップ) ボタンを押します。



●ストップ状態に戻り、デジタルディスプレイにはソングナンバーが表示されます。

これで、鍵盤ごとに演奏を録音することができました。

♪ 操作のポイント

●メロディー演奏を録音する際、操作11では〔CUSTOM PLAY〕(カスタムプレイ)ボタンを押しているため、すぐに録音できる状態になりました。しかし、ここでPLAY(プレイ)ボタンを押して録音すると、レジストレーションデータがもう一度記録されるため、メモリー残量表示になるまで待たなければなりません。

注意

●メロディー録音の長さは、はじめに録音した伴奏の録音の長さと同じになります。それ以上長く録音することはできません。

こんなこともできる

- 伴奏やメロディー演奏の録音をやり直したい場合は、〔STOP〕(ストップ)ボタンを押さずに、PLAY(プレイ)ボタンを押せば、リトライ機能によって録音のやり直しが簡単にできます。(リトライ機能についてはP21をご覧ください。)
- リードボイス、キーボードパーカッションの分離録音もできます。P26の「リードボイスによる演奏を分離して録音する」、P29の「キーボードパーカッションによるリズムを分離して録音する」をご覧ください。

■リードボイスによる演奏を分離して録音する

すでに録音したパートを聴きながら、リードボイスの演奏だけを録音することができます。

操作方法

まずリードボイス以外のパートを録音した後、カスタム録音でリードボイスの演奏を録音し、リードボイスを分離します。

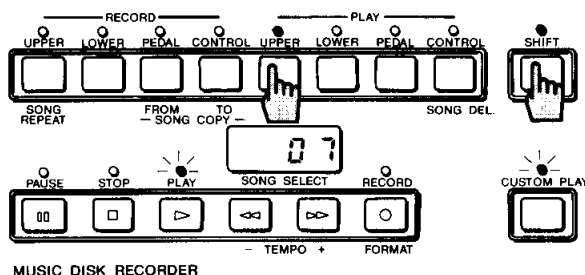
(リードボイス以外の他のパートの録音)

1

〔RECORD/FORMAT〕(レコード/フォーマット)ボタンを押します。

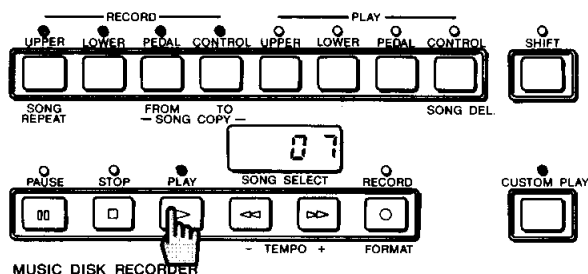
2

〔SHIFT〕(シフト)ボタンを押しながら、プレイセクションの〔UPPER〕(アッパー)ボタンを押します。



3

〔PLAY〕(プレイ)ボタンを押します。



●録音状態になります。

4

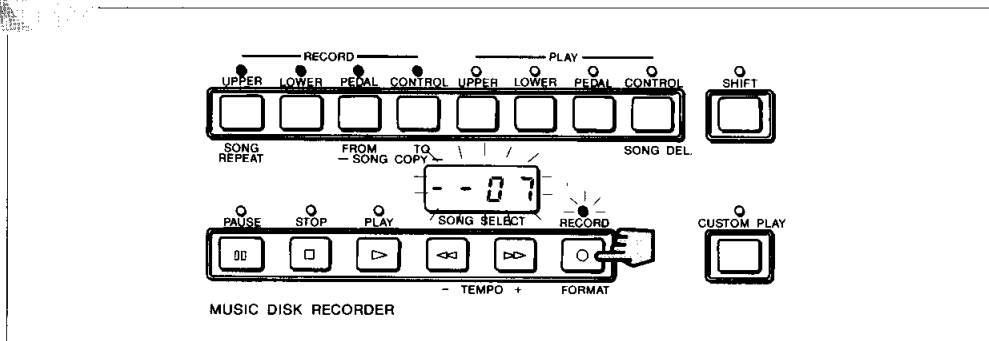
リードボイス以外の他のパートの演奏を録音します。

5

録音が終わったら、〔STOP〕(ストップ)ボタンを押します。

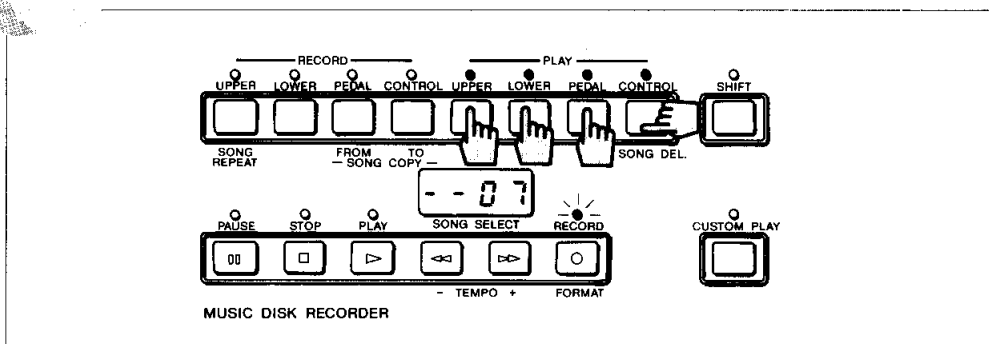
録音済みの他のパートを再生させながら、リードボイスを録音する。

6 (RECORD/FORMAT)(レコード/フォーマット)ボタンを押します。



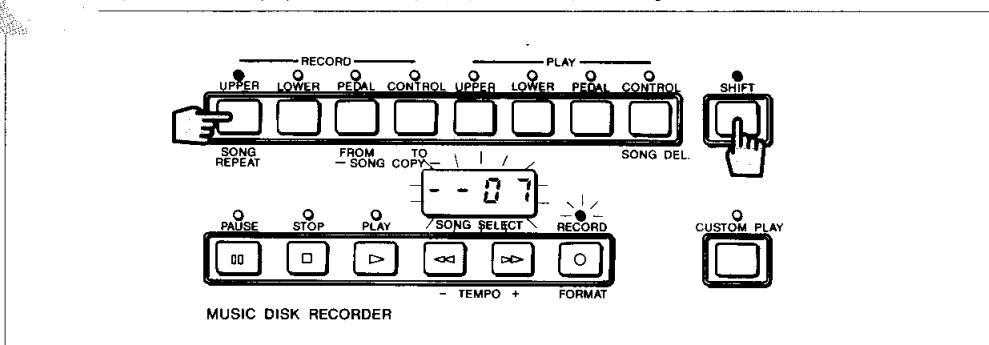
- (RECORD/FORMAT)(レコード/フォーマット)ボタンのランプが点滅します。

7 プレイセクションの全てのボタンを押します。



- プレイセクションの全てのボタンのランプが点灯すると、レコードセクションの全てのボタンのランプが消灯します。

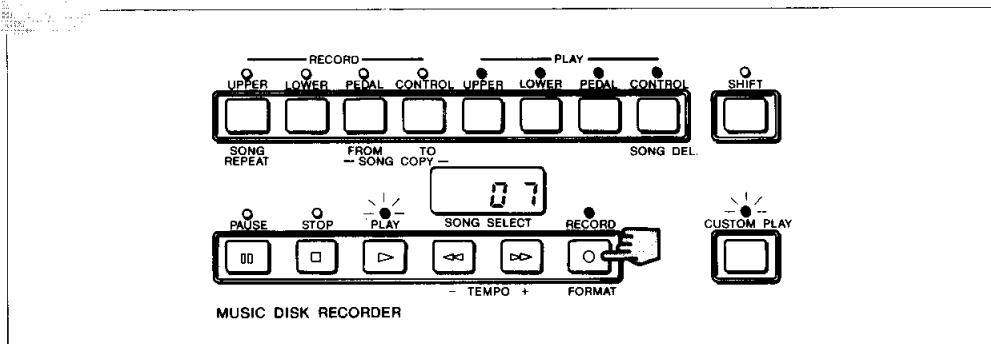
8 (SHIFT)(シフト)ボタンを押しながらレコードセクションの(UPPER)(アッパー)ボタンを押します。



- (UPPER)(アッパー)ボタンのランプが点灯します。

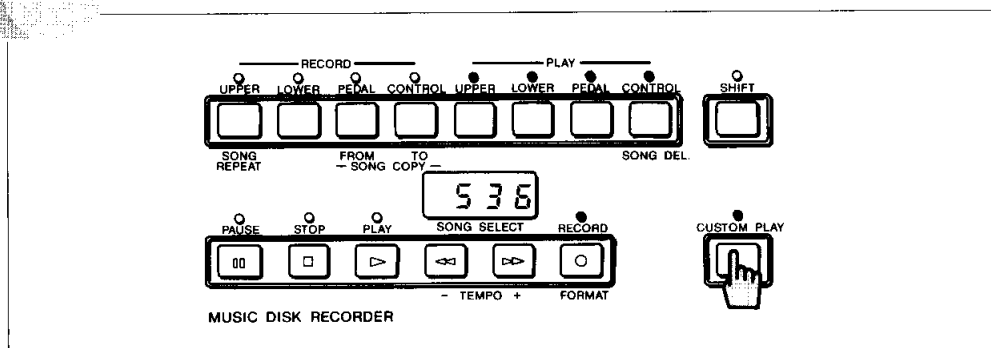
9 (UPPER)(アッパー)ボタンのランプが点灯していることを確認します。(UPPER)(アッパー)ボタンを離れたあと、(SHIFT)(シフト)ボタンを離します。

10 (RECORD/FORMAT)(レコード/フォーマット)ボタンを押します。



- (CUSTOM PLAY)(カスタムプレイ)ボタンと(PLAY)(プレイ)ボタンのランプが点滅します。

11 (CUSTOM PLAY)(カスタムプレイ)ボタンを押します。



- 先に録音した他の鍵盤での演奏が再生され、リードボイスでの演奏が録音できる状態になります。

12 再生される演奏を聴きながら、リードボイスの演奏をします。

13 リードボイスでの録音が終了したら、(STOP)(ストップ)ボタンを押します。

再生の方法はP38をご覧ください。

これで、リードボイスによる演奏を分離して録音できました。

注意 ●この手順は、他のパートの演奏にリードボイスの演奏を重ねて録音する方法です。リードボイスの演奏だけをフロッピーディスクに録音する方法ではありません。

■キーボードパーカッションによるリズムを分離して録音する

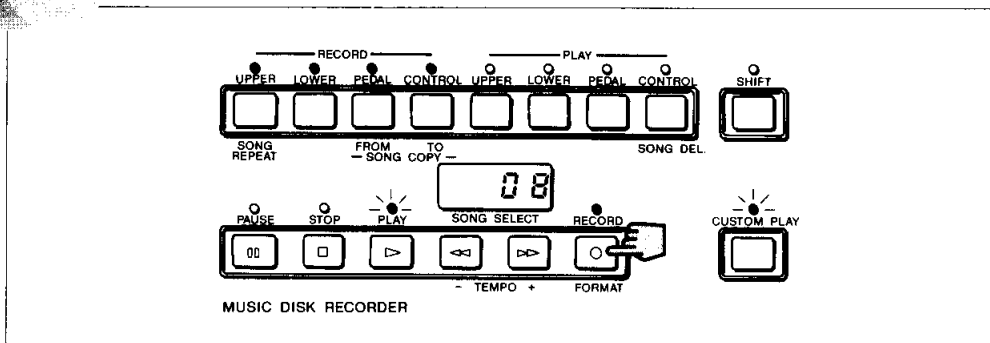
すでに録音したリズムを聴きながら、キーボードパーカッションの演奏を録音することができます。また、キーボードパーカッションの演奏を録音して、そのリズムに合わせて他のパートを録音することもできます。

操作方法

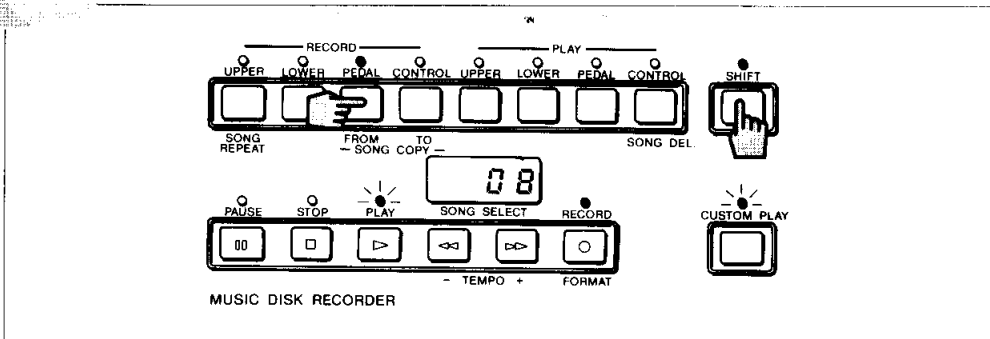
カスタム録音によって、キーボードパーカッションの演奏を録音することができます。

1 (SONG SELECT)(ソングセレクト)ボタンを押して、ソングナンバーを選びます。

2 (RECORD/FORMAT)(レコード/フォーマット)ボタンを押します。

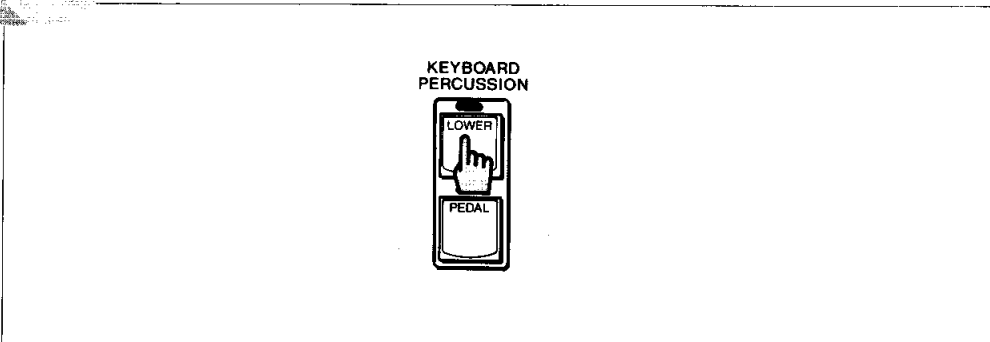


3 次に(SHIFT)(シフト)ボタンを押しながらレコードセクションの(PEDAL)(ペダル)を押します。



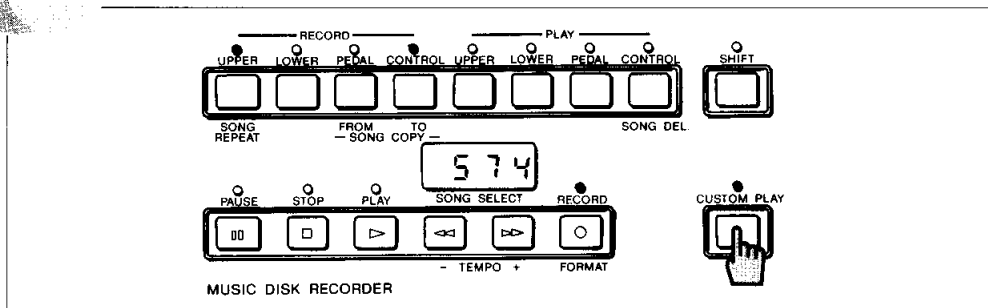
●キーボードパーカッションを分離して録音できるようになりました。

4 (LOWER)(ロワー)ボタンを押します。



5

〔CUSTOM PLAY〕(カスタムプレイ)ボタンを押します。



- ボタンを押すと、すぐに録音が始まります。

6

録音が終了したら、〔STOP〕(ストップ)ボタンを押します。

これで、キーボードパーカッションのリズムが録音できました。

注
意

- ソングナンバーにすでにデータが入っていた場合は次の操作をしてください。データを消したくない場合は別のソングナンバーを選んでください。
- キーボードパーカッションのリズムを再生する場合は、〔SHIFT〕(シフト)ボタンを押した時に、プレイセクションの〔PEDAL〕(ペダル)ランプが点灯していることを確認してください。

こんなこともできる

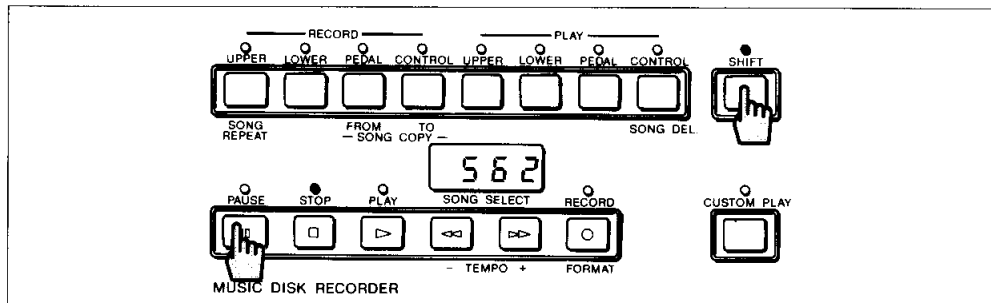
- 録音したキーボードパーカッションを聴きながら、他のパートを録音したい場合は、〔RECORD/FORMAT〕(レコード/フォーマット)ボタンを2回押した後に、〔PLAY〕(プレイ)ボタンを押して、他のパートを録音してください。

■ メモリー残量の確認

操作方法

デジタルディスプレイ表示でフロッピーディスクのメモリー残量を確認します。

〔SHIFT〕(シフト)ボタンを押しながら、〔PAUSE〕(ポーズ)ボタンを押します。



- ボタンを押している間、メモリー残量がデジタルディスプレイに表示されます。

注
意

- メモリー残量の最大は、何も録音されていない2DDフロッピーを使用した場合で626、2HDでは1248です。
- メモリーは、録音を始めると、2メモリーずつ減少していきます。メモリーがなくなるとデジタルディスプレイの表示が(0000)になります。

レジストレーションのデータだけを差し替える

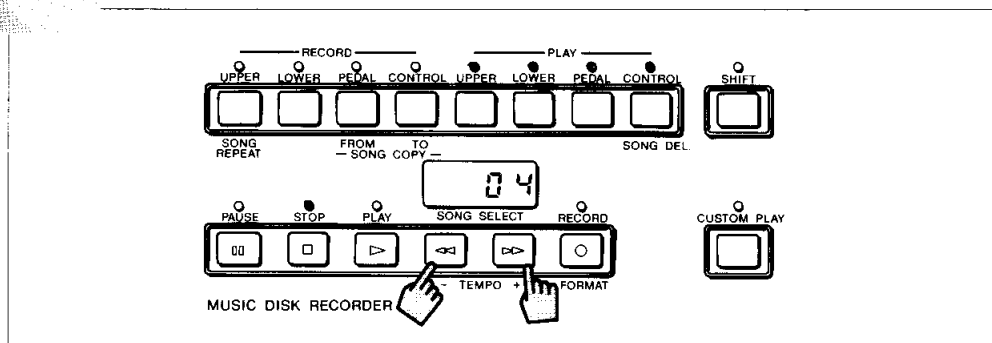
機能説明

録音した後で、演奏データはそのままにしてレジストレーションのデータだけを一括して差し替えることができます。

操作方法

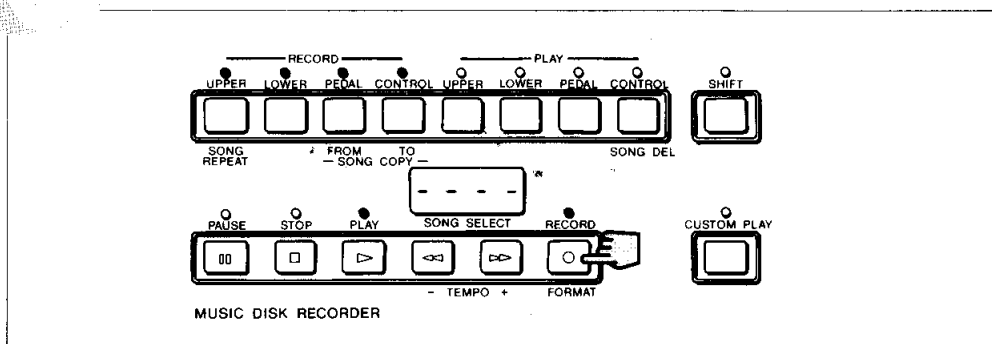
1 新しく記録するレジストレーションのデータをレジストレーションメモリーボタンに記憶させておきます。

2 (SONG SELECT)(ソングセレクト)ボタンを押してソングナンバーを選びます。

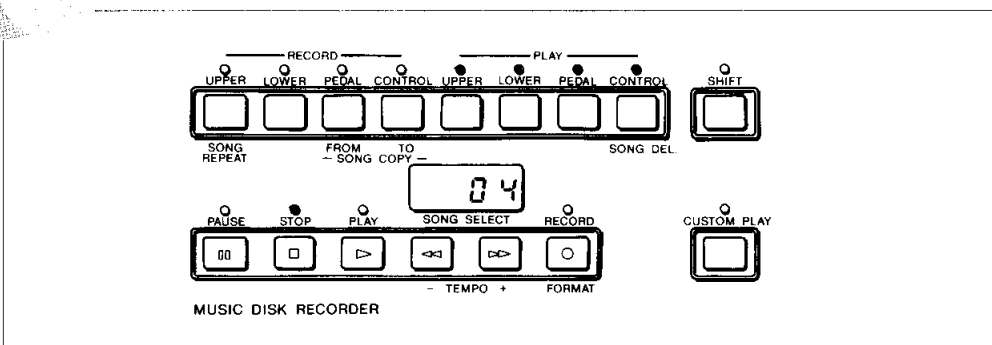


●選んだソングナンバーがデジタルディスプレイに表示されます。

3 (RECORD/FORMAT)(レコード/フォーマット)ボタンを押しながら、(M./TO DISK)(メモリートゥーディスク)ボタンを押します。



4



●書き込みが終了するとデジタルディスプレイはソングナンバー表示に変わります。

レジストレーションのデータだけを差し替える

これで、前に記録したレジストレーションのデータが消去され、1で用意しておいたレジストレーションのデータが記録されました。

操作のポイント

- レジストレーションデータの差し替えは、レジストレーションを記録する場合と同様に、レジストレーションメモリーボタンに現在記録している全てのデータを一括して差し替えられます。

演奏を再生する

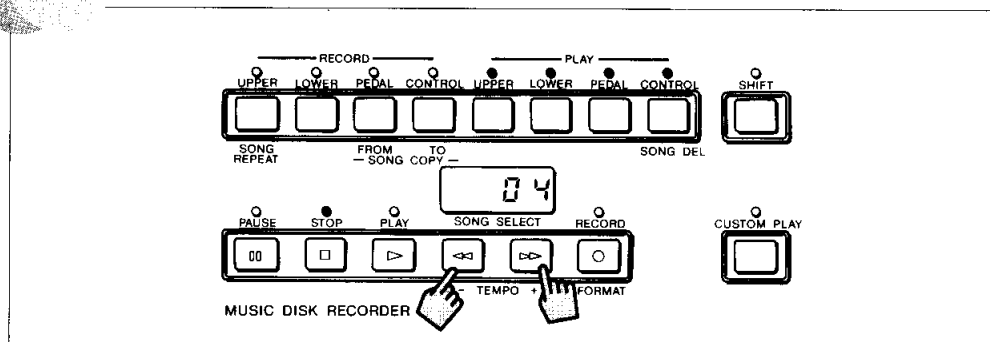
機能説明

録音した演奏の再生や、レジストレーションのデータを再現します。

操作方法

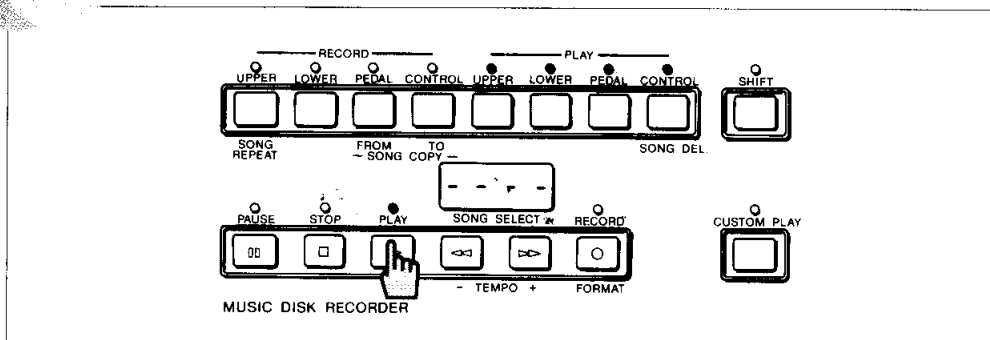
基本的な再生方法は、ソングナンバーを選んで〔PLAY〕(プレイ)ボタンを押すだけです。

- 1 〔SONG SELECT〕(ソングセレクト)ボタンを押して、再生させるソングナンバーを選びます。

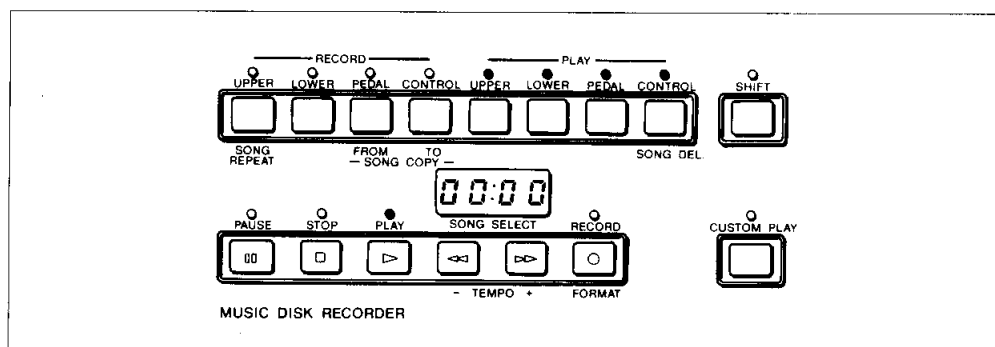


- 選択したソングナンバーが、デジタルディスプレイに表示されます。

- 2 〔PLAY〕(プレイ)ボタンを押します。



- PLAY (プレイ) ランプが赤く点灯し、レジストレーションのデータがエレクトーンに読み込まれます。
- デジタルディスプレイでは(----)が右から左に走行し、データの読み込みをしていることを示します。



- データの読み込みが終了すると、デジタルディスプレイに時間が表示され、再生がスタートします。

これで、選択したソングナンバーの演奏またはレジストレーションのデータが再生できました。

♪ 操作のポイント

- ストップ状態のときに、プレイセクションのランプが点灯していれば、その鍵盤の演奏は再生可能です。電源を入れた直後では、プレイセクションの全てのランプが点灯しています。

注意

- 再生中は絶対に、電源を切ったり、ディスク取り出しボタンを押したりしないでください。
- デジタルディスプレイに時間が表示されても、すぐに演奏を再生できないことがあります。録音する際に、メモリー残量表示に切り替わってもすぐ演奏を始めなかった場合などは、録音が遅れた分だけ再生のスタートも遅れることになります。
- レジストレーションデータを読み込むとき、リズムが発音していると、リズム（パターン・シーケンス）で作ったデータは読み込まれません。
- 演奏やデータが再生されるまでに、データを読み込むための時間がかかる場合があります。

こんなこともできる

- EL-50などで作ったユーザーボイス、ユーザーリズムパターン、リズムシーケンスデータ以外のレジストレーションのデータのみを再生するには、SHIFT（シフト）ボタンを押しながら、〔CUSTOM PLAY〕（カスタムプレイ）ボタンを押します。この方法は、レジストレーションのデータを短時間で読み込ませるときに便利です。

次に再生中のいろいろな操作について説明します。

■再生を途中で止める

〔STOP〕（ストップ）ボタンを押します。

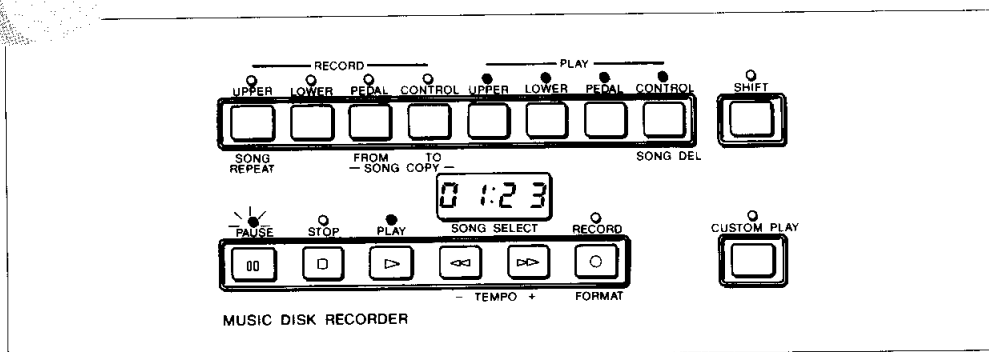
■再生の一時停止

機能説明

再生を一時的に停止させることができます。

1

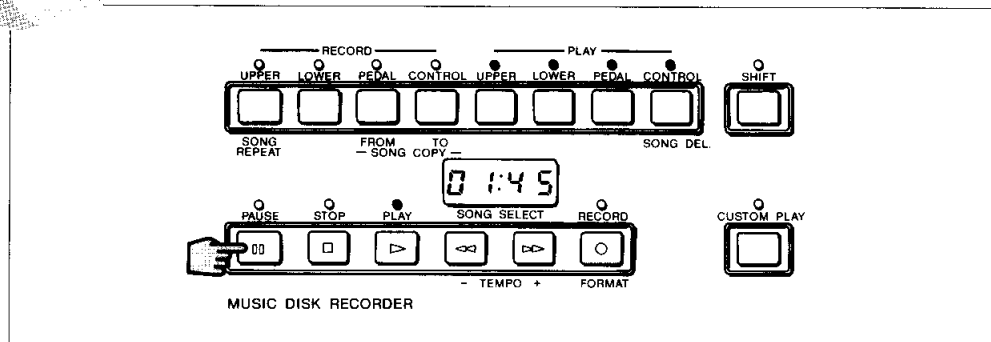
〔PAUSE〕（ポーズ）ボタンを押します。



- 〔PAUSE〕（ポーズ）ボタンの赤ランプが点滅します。
- デジタルディスプレイに表示されている時間表示の進行が停止し、再生が一時的にストップします。

2

一時停止の状態を解除したい場合は、〔PAUSE〕(ポーズ)ボタンをもう一度押します。



- 曲の続きが再生されます。

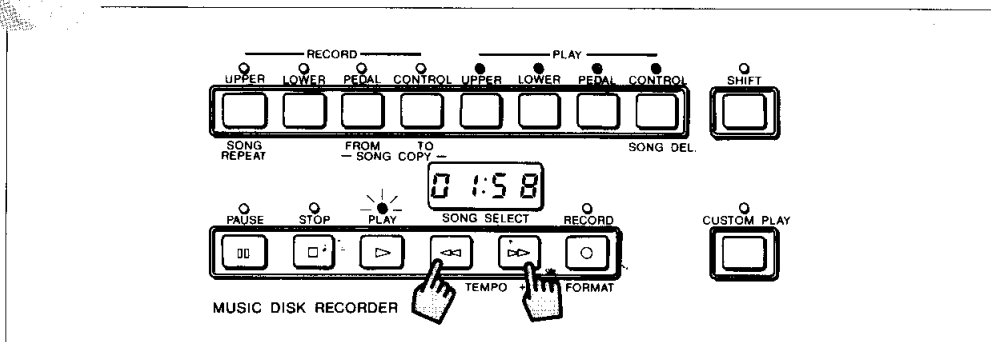
■再生の早送り、早戻し

機能説明

再生中に、再生させたくない部分をとばしたり、もう一度再生させたい部分に戻したりできます。デジタルディスプレイの時間表示を目安にして、操作します。

1

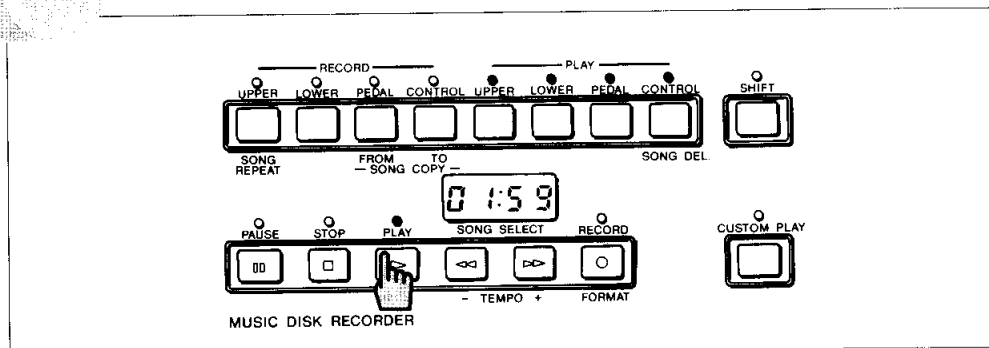
早送りするときは、〔TEMPO +〕(テンポ)ボタン(▶▶)を押します。
早戻しするときは、〔TEMPO -〕(テンポ)ボタン(◀◀)を押します。



- 再生が中断します。
- デジタルディスプレイの時間表示が早送り、または早戻しされます。
- 再スタートさせたい時間を表示させます。
- 〔TEMPO +〕または〔TEMPO -〕ボタンを押し続けると、連続して早送り、早戻しすることができます。
- 一時停止状態になり、〔PLAY〕(プレイ)ボタンが点滅します。

2

〔PLAY〕(プレイ)ボタンを押します。



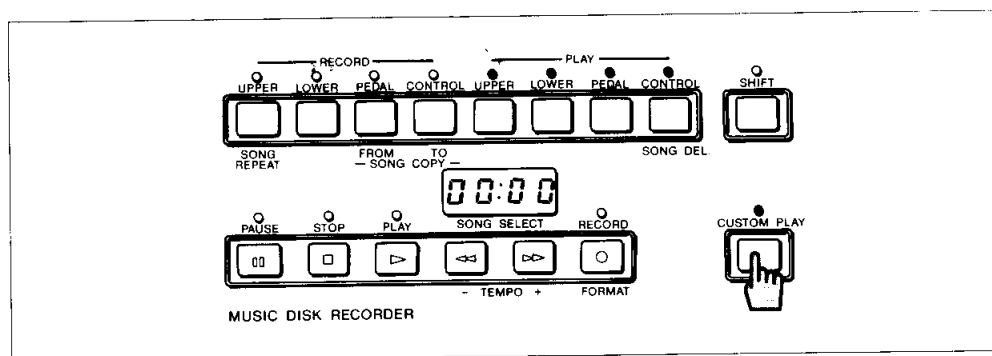
●再生がスタートします。

これで、早送りまたは、早戻しした部分から再生できました。

■演奏だけを再生する(カスタム再生)

- レジストレーションのデータは再生させずに、演奏だけを再生させることができます。
- レジストレーションのデータがエレクトーンに読み込まれないので、読み込み時間が節約される分、〔PLAY〕(プレイ)ボタンを押したときに比べて短時間で再生することができます。
- レジストレーションをエレクトーンに読み込ませた後、同じ曲を繰り返し再生したいときなどに便利です。

〔CUSTOM PLAY〕(カスタムプレイ)ボタンを押します。



●デジタルディスプレイが時間を表示し、演奏の再生がスタートします。

これで、演奏だけを再生することができました。

■特定のパート再生

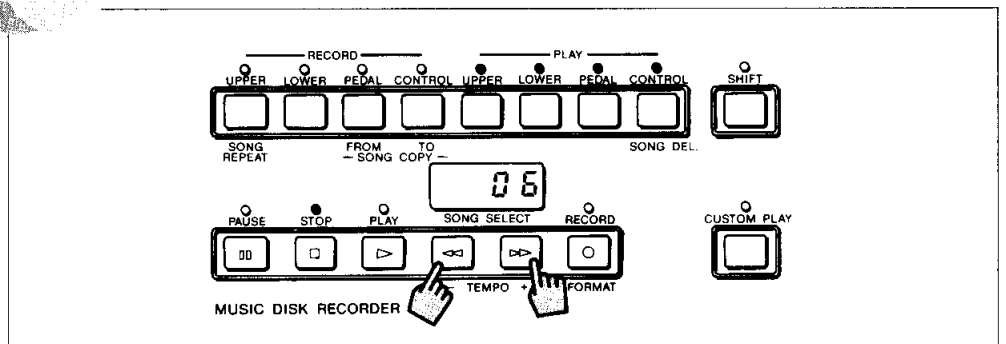
機能説明

プレイセクションにある4つのボタンのランプを点灯または消灯させて特定の鍵盤による演奏を再生させることができます。〔UPPER〕(アッパー)ボタンは上鍵盤、〔LOWER〕(ロワー)ボタンは下鍵盤、〔PEDAL〕(ペダル)ボタンはペダル鍵盤に対応しています。また、〔CONTROL〕(コントロール)ボタンはエクスプレッションペダルやレジストレーションメモリの切り替えなどを記録するためのボタンです。

再生中の演奏に合わせて再生させていないパートを演奏することができるので、鍵盤ごとの演奏の練習に便利です。

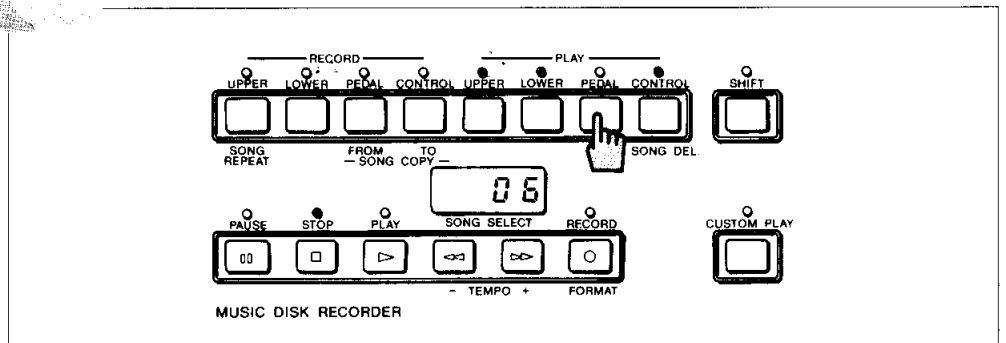
操作方法

- 1 〔SONG SELECT〕(ソングセレクト)ボタンを押して、再生させるソングナンバーを選びます。



- プレイセクションのランプが全て点灯しています。

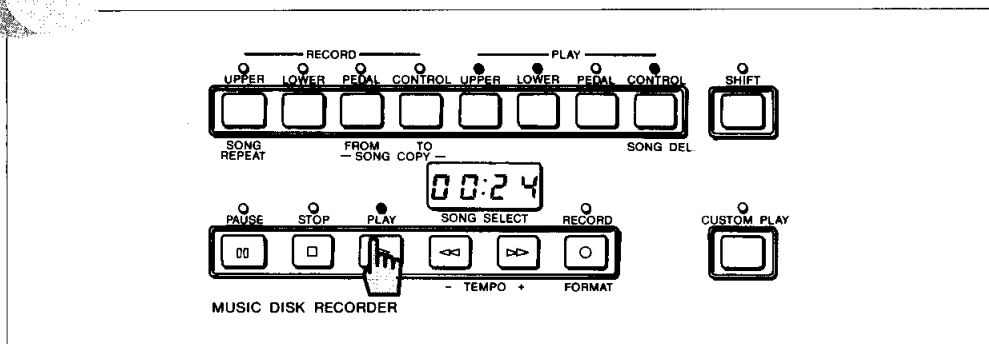
- 2 プレイセクションで、再生させないパートのボタンを押します。



- プレイセクションでは、押したボタンのランプが消えます。ランプが消えているパートは再生されません。

3

〔PLAY〕(プレイ)ボタンを押します。



- 〔PLAY〕(プレイ)ボタンのランプが点灯します。
- レジストレーションデータがエレクトーンに送信されます。
- プレイセクションでランプが点灯しているパートの演奏がスタートします。

これで、特定のパートだけが再生できました。

♪ 操作のポイント

- 再生させないようにするパートはいくつでも設定できます。

注意

- 再生中の演奏に合わせて演奏しているとき、再生するデータがなくなると、MDR-10は自動的にストップします。

■リードボイスを分離した録音の再生

操作方法

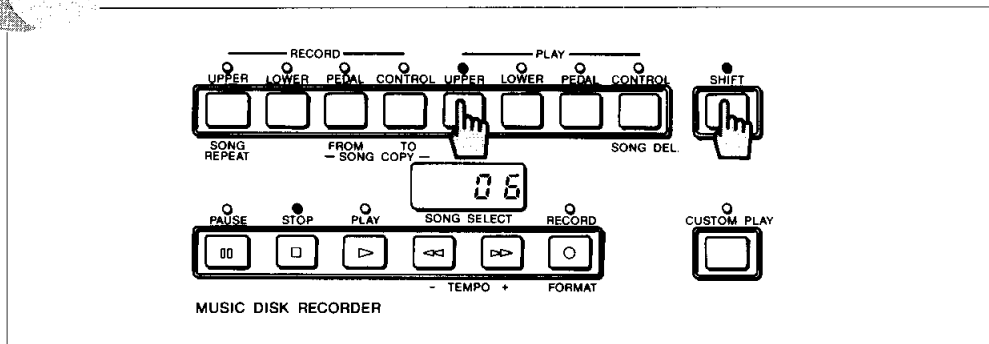
リードボイスを分離させた録音を再生する場合は、再生のたびにこの操作が必要です。

1

プレイセクションの全パートのボタンが点灯していることを確認します。消灯していたら、ボタンを押します。

2

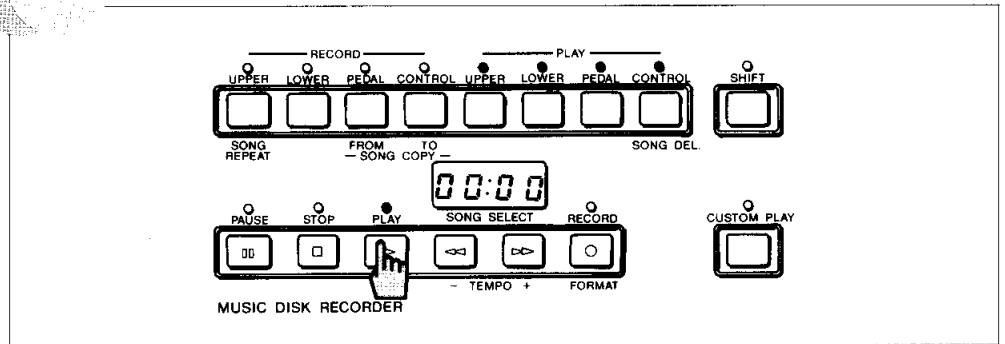
〔SHIFT〕(シフト) ボタンを押しながら、プレイセクションの〔UPPER〕(アッパー) ボタンを押します。



- 〔UPPER〕(アッパー)ボタンのランプが点灯します。

3

〔PLAY〕(プレイ)ボタンを押します。



これで、リードボイスを分離した録音の再生ができました。

注意

- 一度リード分離再生の操作をすると、別のソングナンバーを選んでもリード分離した状態がそのまま残ります。

■ 繰り返し再生

機能説明

フロッピーディスクに録音した全ての曲、または特定の1曲を繰り返し再生させることができます。

操作方法

繰り返し再生させたい曲のソングナンバーを選ぶ場合、全曲か1曲だけかによって操作方法が違います。

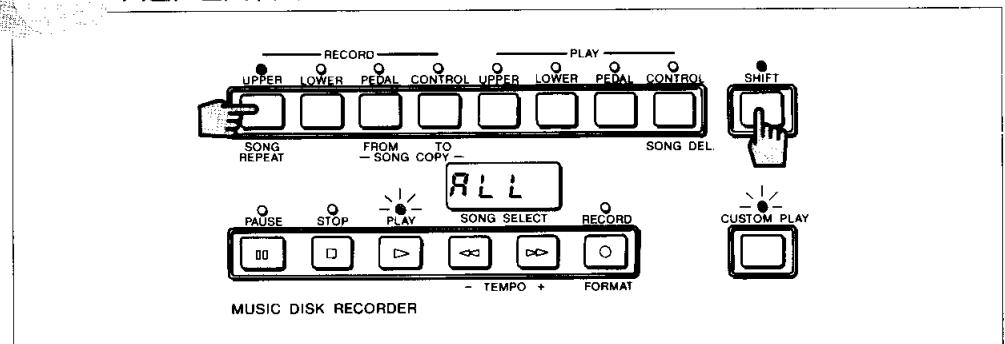
全曲を繰り返し再生する場合

1

〔SONG SELECT〕(ソングセレクト)ボタンを押して、1曲目に再生させたい曲のソングナンバーを選びます。

2

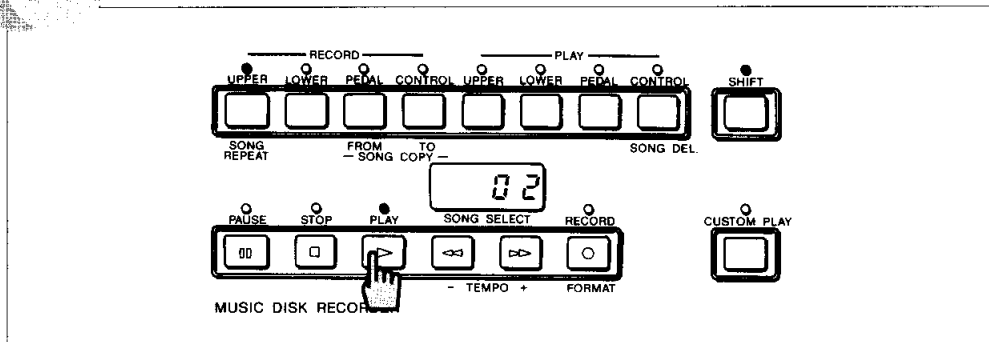
〔SHIFT〕(シフト)ボタンを押しながら、〔UPPER/SONG REPEAT〕(アッパー/ソングリピート)ボタンを押します。



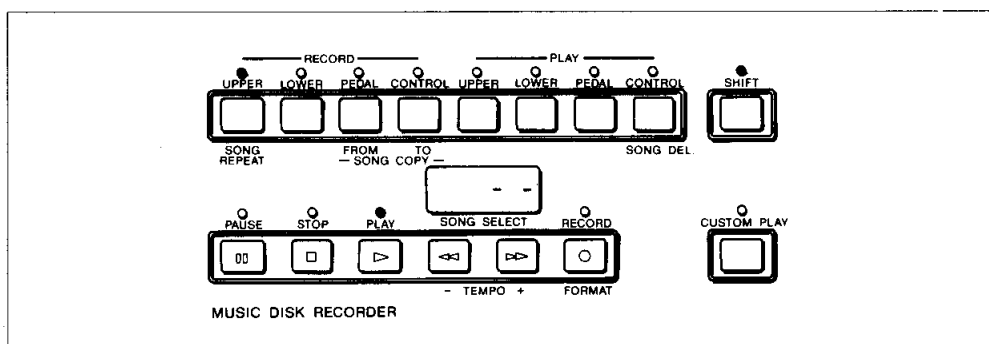
- 〔SHIFT〕(シフト)ボタンと〔UPPER/SONG REPEAT〕(アッパー/ソングリピート)ボタンのランプが点灯します。
- デジタルディスプレイには〔ALL〕が表示されます。

3

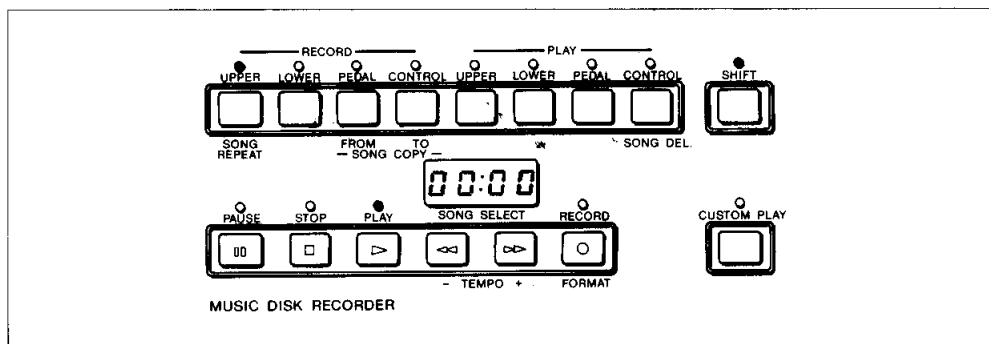
〔PLAY〕(プレイ)ボタンを押します。



- デジタルディスプレイに、再生されるソングナンバーが表示されます。



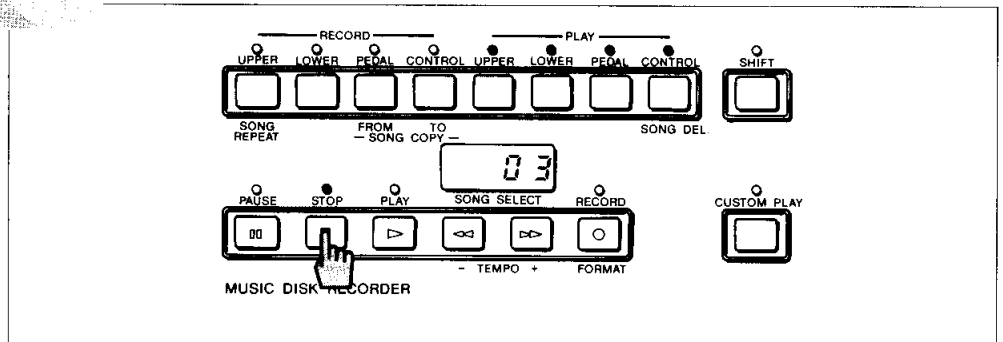
- レジストレーションがエレクトーンに送信中は、デジタルディスプレイに〔--〕が走行します。
- 送信が終了すると、デジタルディスプレイは時間表示に切り替わります。



- 演奏の再生がスタートします。
- 最初に選んだ1曲目の再生が終了すると、2曲目からは、データが記録されているソングナンバーが自動的に探し出されて、順次再生されます。

これで、全曲を繰り返して再生することができました。

- 4** 繰り返し再生をストップさせたいときは、〔STOP〕(ストップ)ボタンを押します。



- 〔STOP〕(ストップ)ボタンのランプが点灯します。

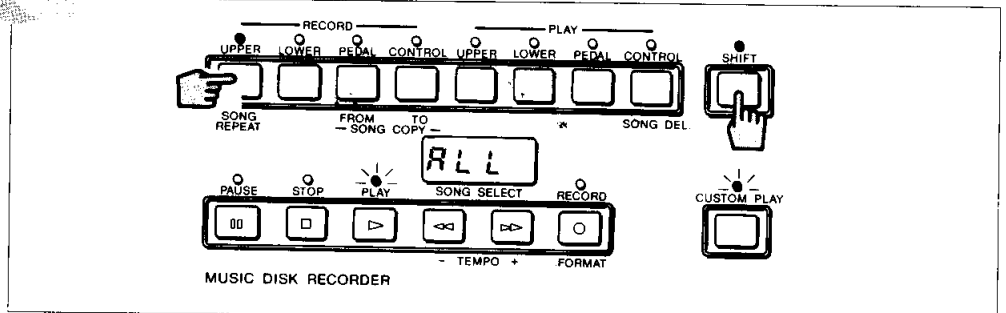
注意

- 1枚のディスクに、リードボイスを分離して録音した曲と、分離していない曲がまざっている場合は、繰り返し再生ができません。

1曲だけ繰り返し再生する場合

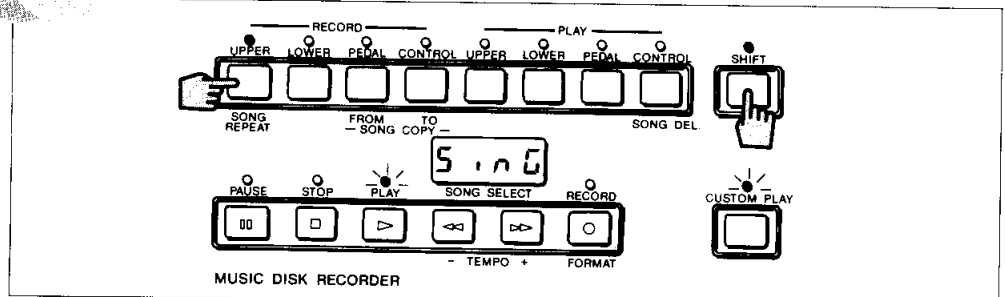
- 1** 〔SONG SELECT〕(ソングセレクト)ボタンを押して、再生させたい曲のソングナンバーを選びます。

- 2** 〔SHIFT〕(シフト)ボタンを押しながら、〔UPPER/SONG REPEAT〕(アッパー/ソングリピート)ボタンを押します。



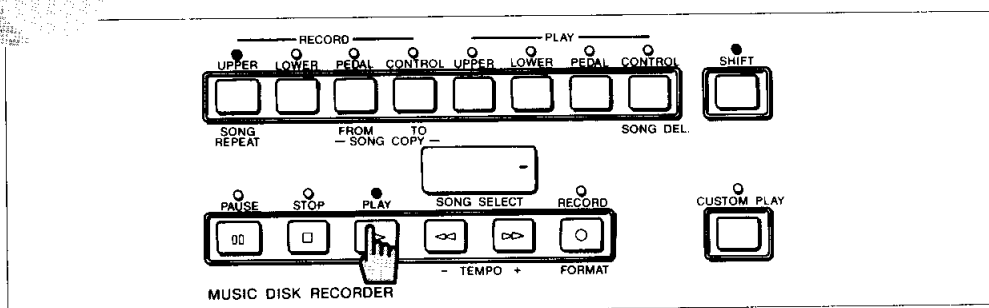
- 〔SHIFT〕(シフト)ボタンと〔UPPER/SONG REPEAT〕(アッパー/ソングリピート)ボタンのランプが点灯し、デジタルディスプレイには〔ALL〕が表示されます。

- 3** もう一度〔SHIFT〕(シフト)ボタンを押しながら、〔SONG REPEAT〕(ソングリピート)ボタンを押します。



- デジタルディスプレイの表示が〔ALL〕から〔SING〕に切り替わり、1曲だけのリピート再生ができる状態になったことを示します。

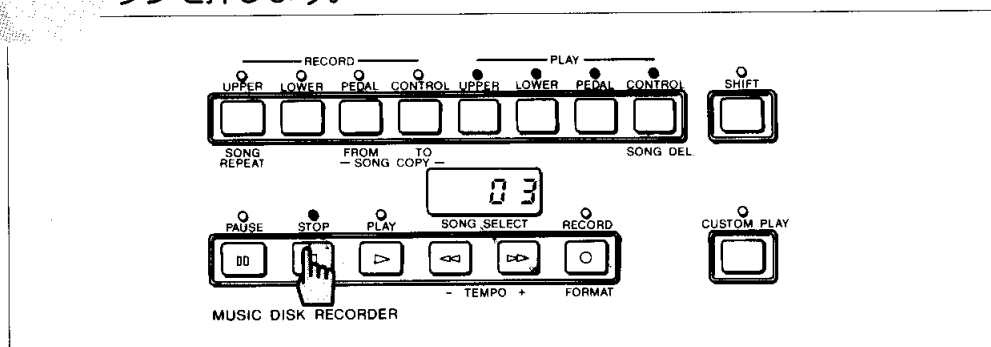
4 (PLAY)(プレイ)ボタンを押します。



- 再生するソングナンバーが表示され、レジストレーションがエレクトーンに送信されます。
- 送信中はデジタルディスプレイに右から左へ(---)が走行し、送信が終了すると時間表示に切り替わります。
- 1曲だけのリピート再生をした場合、曲の終わりまで再生すると、同一のソングナンバーが表示されます。そして、再びレジストレーションのデータが送信され、再生を繰り返します。

これで、一曲だけを、繰り返して再生することができました。

5 繰り返し再生をストップさせたいときは、(STOP)(ストップ)ボタンを押します。



- ストップ状態に戻ります。

こんなこともできる

- レジストレーションのデータがエレクトーンにすでに送信されているときは、(PLAY)(プレイ)ボタンではなく(CUSTOM PLAY)(カスタムプレイ)ボタンを押して、再生を始めます。レジストレーションのデータをもう一度送信しないで済むので、すぐに繰り返し再生ができます。
- 録音した曲の特定のパートを繰り返し再生させることもできます。プレイセクションで、再生させたいパートのボタンを押してください。

注意

- 1曲だけの繰り返し再生をしたときに、選んだソングナンバーにデータが記録されていない場合や、全曲の繰り返し再生をしたときに、フロッピーディスクに1曲もデータが記録されていない場合は、デジタルディスプレイに(00:00)が表示され、ストップ状態に戻ります。

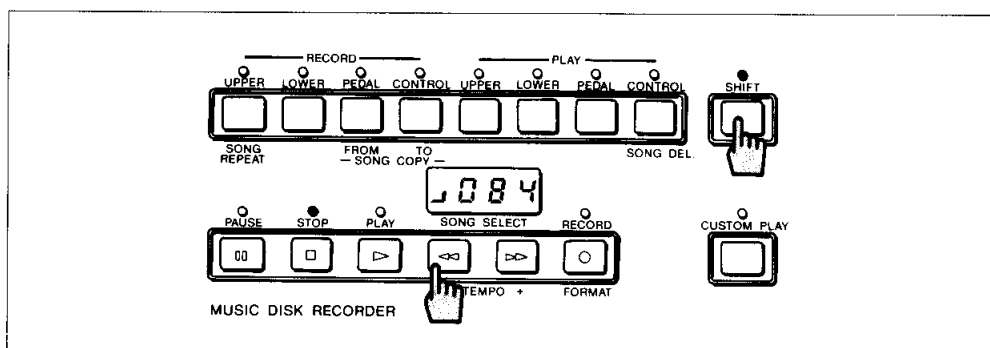
■再生のテンポ

機能説明

録音した曲のテンポを50～200%の範囲で自由に変更することができます。

操作方法

- テンポを速くしたい場合は、〔SHIFT〕(シフト) ボタンを押しながら〔TEMPO+〕(テンポ+) ボタンを押します。
- テンポを遅くしたい場合は、〔SHIFT〕(シフト) ボタンを押しながら〔TEMPO-〕(テンポ-) ボタンを押します。



- 〔SHIFT〕(シフト)ボタンを押しながら〔TEMPO+〕(テンポ+)ボタンまたは〔TEMPO-〕(テンポ-) ボタンを押している間、デジタルディスプレイに数字が表示されます。この数字は、録音したときのテンポを“100”とした場合の再生時のテンポをパーセンテージで表しています。
- この数字は、ボタンから手を離すと1秒程度で消えます。
- テンポの変更をしたときに、デジタルディスプレイの左側に表示される記号の意味は次のとおりです。
 - 7 102: 録音時より早い
 - 1 100: 録音時と同じテンポ
 - 1 098: 録音時より遅い

これで、再生する演奏のテンポが変更されました。

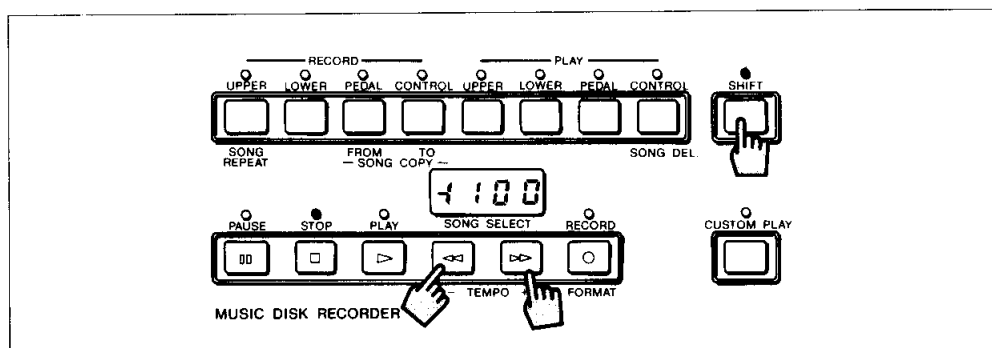
■録音時のテンポに戻す

機能説明

テンポを変更した後で、録音したときのテンポに戻すことができます。

操作方法

- 〔SHIFT〕(シフト)ボタンを押しながら、〔TEMP+〕(テンポ+)ボタンと〔TEMP-〕(テンポ-)ボタンを同時に押します。



- デジタルディスプレイに〔100〕が表示され、録音したときのテンポに戻ったことを示します。

これで、録音したときの元のテンポに戻りました。

注意

- 一度テンポを変更すると、別のソングナンバーを選んでも変更したテンポがそのまま残ります。テンポを変更した後は必ず上記の操作をしてテンポを元に戻してください。また、電源を切った場合もテンポは元に戻ります。

曲をコピーする

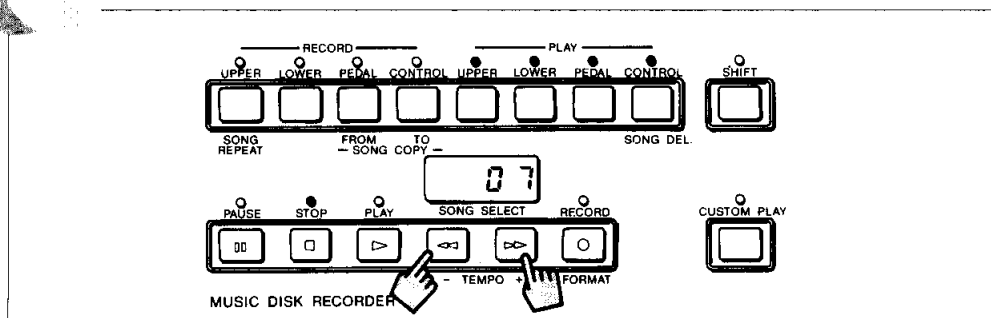
機能説明

ソングナンバーに記録したデータを、別のソングナンバーにコピーすることができます。

操作方法

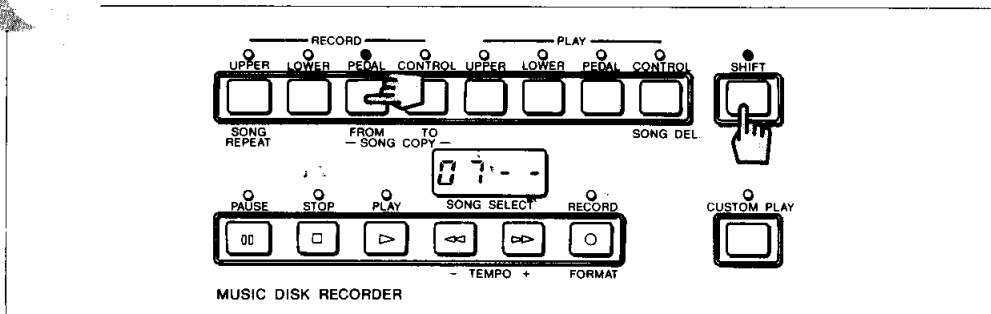
ソングナンバー「7」をソングナンバー「9」にコピーする操作を例にして説明します。

- 1 (SONG SELECT)(ソングセレクト)ボタンを押して、コピー元のソングナンバー「7」を選びます。



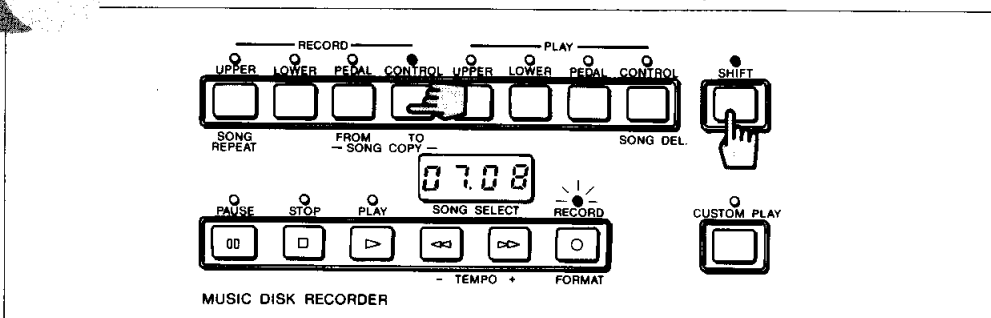
- デジタルディスプレイに「07」が表示されます。

- 2 (SHIFT)(ボタン)を押しながら、(PEDAL/SONG COPY FROM)(ペダル/ソングコピーフロム)ボタンを押します。



- デジタルディスプレイの上二桁にコピー元のソングナンバー「07」が表示されます。右二桁には、「--」が表示され、コピー先がまだ指定されていないことを示します。
- このとき(SHIFT)(シフト)、(PEDAL/SONG COPY FROM)(ペダル/ソングコピーフロム)ボタンから指を離すと、ソングナンバーの変更ができます。

- 3 (SHIFT)(シフト)ボタンを押しながら、(CONTROL/SONG COPY TO)(コントロール/ソングコピートゥー)ボタンを押します。

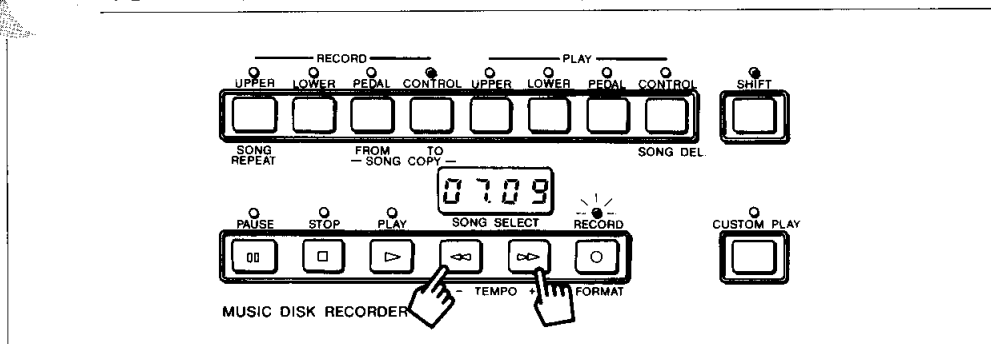


曲をコピーする

- コピー先として、データが記録されていないソングナンバーが自動的に選ばれ、下二桁に表示されます。
- 〔RECORD/FORMAT〕(レコード/フォーマット)ボタンの赤ランプが点滅します。

4

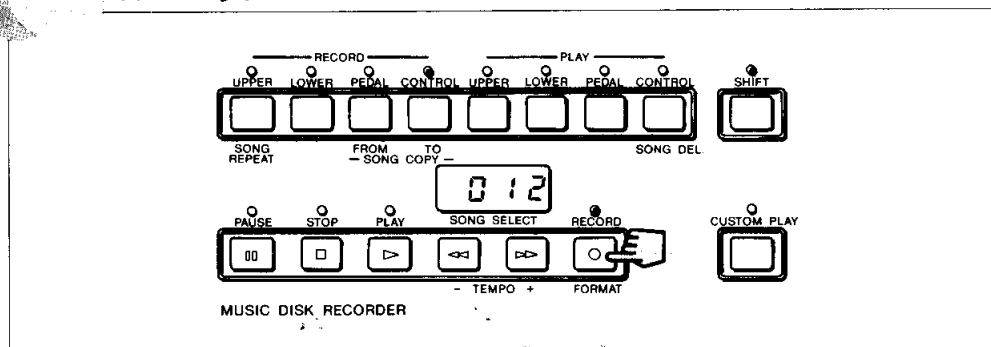
〔SONG SELECT〕(ソングセレクト)ボタンを押して、コピー先のソングナンバー「9」を選びます。



- コピー先のソングナンバーを表す「08」が「09」に変わります。

5

〔RECORD/FORMAT〕(レコード/フォーマット)ボタンを押します。



- 〔RECORD/FORMAT〕(レコード/フォーマット)ボタンの赤ランプが点滅から点灯に変わり、曲のコピーが開始されます。
- デジタルディスプレイにはコピー元の容量が表示されコピーの進行に従って、減少していきます。
- 曲のコピーが終了すると、表示される数字が〔 07 〕になり、自動的にストップします。

これで、録音したデータが別のソングナンバーにコピーされました。

注意

- コピー元として選んだソングナンバーにデータが記録されていない場合は、データが記録されているソングナンバーが自動的に探し出され、表示されます。
- コピー先のソングナンバーすべてにデータが記録されている場合や、フロッピーディスクのメモリー残量が不足している場合は、デジタルディスプレイに〔FULL〕が表示されます。この場合ソングコピーはできません。〔STOP〕(ストップ)ボタンを押してから、不要なソングナンバーのデータを削除してください。(曲を削除する方法はP47をご覧ください。)

曲を削除する

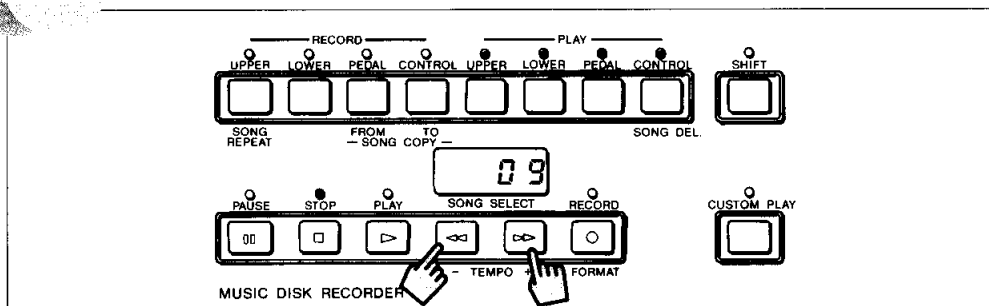
機能説明

フロッピーディスクに記録している曲が不要になった場合、曲を削除することができます。

操作方法

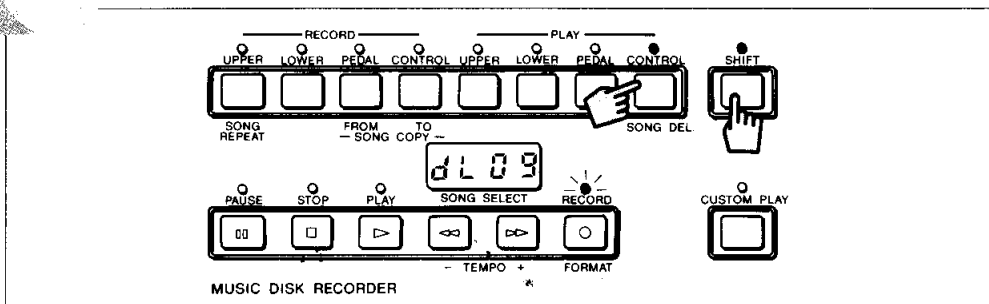
ソングナンバー「9」を削除する操作を例にして説明します。

- 1 (SONG SELECT)(ソングセレクト)ボタンを押して、削除したいソングナンバー「9」を選びます。



- ディスプレイに選んだソングナンバー「9」が表示されます。

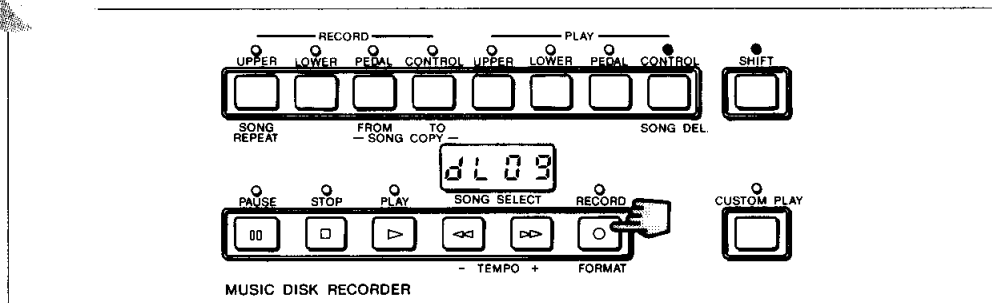
- 2 (SHIFT)(シフト)ボタンを押しながら、(CONTROL/SONG DEL.) (コントロール/ソングデリート)ボタンを押します。



- デジタルディスプレイの上二桁には(dL)(デリート)が表示され、下二桁には削除するソングナンバー「9」が表示されます。
- (RECORD/FORMAT)(レコード/フォーマット)ボタンのランプが赤く点滅します。
- 削除を中止したい場合は、(RECORD/FORMAT)(レコード/フォーマット)ボタンのランプが点滅しているうちに(STOP)(ストップ)ボタンを押します。

3

(RECORD/FORMAT)(レコード/フォーマット)ボタンを押します。



- (RECORD/FORMAT)(レコード/フォーマット)ボタンの赤ランプが点滅から点灯に変わり、データの削除が開始されます。
- 削除が終了すると、(RECORD/FORMAT)(レコード/フォーマット)ボタンの赤ランプが消え、自動的にストップ状態に戻ります。

これで、ソングナンバー「9」のデータが削除できました。

こんなこともできる

- [CONTROL/SONG DEL.](コントロール/ソングデリート)ボタンを押した後も削除するソングナンバーを選び直すことができます。

末永くお使いいただくために

置き場所について

次のような場所には置かないでください。

- 直射日光のあたる場所
- 暖房器具の近く
- 湿気やホコリの多い場所
- 温度の特に低い場所

取扱い上の注意

- ボタンやスイッチ類に無理な力を加えないでください。
- キズをつけないように、取扱いに注意してください。

取り付け時の注意

- P2「MDR-10の取り付け方法」を参照して、正しく取り付けてください。
- 取り付け、取り外しは、EL-30の電源スイッチを切ってから行ってください。

他の電気機器への影響について

- このエレフーンはデジタル回路を多用しているため、近くでラジオやテレビなどの電気機器などを同時に使用すると、雑音や誤動作などの原因になることがあります。他の電気機器から十分に離してご使用ください。

落雷に対する注意

- 落雷などの恐れがあるときは、EL-30の電源プラグを早めにコンセントから抜いてください。

外装のお手入れ

- 外装を清掃するときは、柔らかい布で乾拭きしてください。
- 汚れがひどい場合は、水でうすめた台所用の中性洗剤に浸した布をよく絞って拭いた後、乾いた布で乾拭きしてください。
- シンナーやベンジンなどの溶剤は鍵盤や外装をいためますので、絶対に使用しないでください。
- 外装の塗装は、ビニール製品と化学反応を起こすことがありますから、ビニール製品のカバーなどはご使用にならないでください。

万一異常があったら

- 使用中に音が出なくなったり、異常なおいや煙が出た場合は、EL-30の電源プラグをただちにコンセントから抜き、お求めの販売店もしくはサービスセンター、サービスステーションまでご連絡ください。

本書と保証書の保管について

- 本書をお読みになった後は、保証書とともに大切に保管してください。

MDR-10の仕様

記録媒体	フロッピーディスク(3.5インチ、2HDまたは2DD)
最大録音曲数	40曲
コントロール	レコード(アッパー、ロー、ペダル、コントロール)、プレイ(アッパーロー、ペダル、コントロール)、ポーズ、ストップ、プレイ、ソングセレクト、レコード、ソングリピート、ソングコピー(フロム、トゥ)、ソングテリート、シフト、カスタムプレイ、テンポ、フォーマット
その他	フロッピーディスクドライブ、ユーズランプ、ディスク取り出しボタン、デジタルディスプレイ
寸法・重量	パネルユニット 間口15.5cm、奥行11.5cm、高さ3.2cm、重量269g
	FDDユニット 間口11.4cm、奥行23.9cm、高さ3.8cm、重量815g
付属品	フロッピーディスク(3.5インチ、2DD)

用語辞典

用語	解説	本文参照ページ
ア		
アッパー	上鍵盤のパート。	22
カ		
カスタム再生	レジストレーションのデータは再生させずに演奏だけを再生させる機能。	36
キ		
キーボードパーカッション	下鍵盤またはペダル鍵盤でさまざまな打楽器の音を付ける機能。	29
コ		
コントロール	エクスプレッションペダルやレジストレーションの切り替えなどのパート。	22
ソ		
ソングコピー	あるソングナンバーに記録したデータを他のソングナンバーにコピーする機能。	45
ソングセレクト	操作するソングナンバーを選ぶときに使う機能。	18
ソングテリート	ソングナンバーの削除をするときに使う機能。	47
ソングナンバー	曲番号のこと。	18
ソングリピート	繰り返して再生させるときに使う機能。	39
フ		
フォーマット	新しいフロッピーディスクを使用できるようにするための機能。	11
プロテクト	フロッピーディスクのプロテクトタブを録音不可の状態にして、録音内容を保護すること。	10
へ		
ペダル	ペダル鍵盤のパート。	22
メ		
メモリー残量	録音できる残りの量。	30
リ		
リトライ	演奏をフロッピーディスクに録音中、もう一度はじめから録音しなおすことができる機能。	21

用語

解説

本文参照ページ

レ

レコード

演奏を録音するときやレジストレーションを記録するときを使う機能。

13、18

ロ

ロワー

下鍵盤のパート。

22

おかしいな?と思ったら

現象	原因と処置
ディスクに記録しようとしたら、エラーランプが点灯して、データが移らない。	①操作が間違っていないか。操作方法を確認してください。 ②フロッピーディスクのライトプロテクトタブが録音不可状態になっていませんか。操作を中断してフロッピーディスクを取り出し、録音可能状態にしてください。
40曲まで録音できない。	1曲の演奏時間が長かった場合は、40曲以内でもメモリー残量がなくなることがあります。新しいディスクに録音してください。
メモリー残量がまだ十分あるのに41番以上のソングナンバーを選択できない。	1番から40番までの範囲で指定できます。指定しなおしてください。
以前録音した曲が消えてしまっている。	録音済みのソングナンバーに録音すると、録音済みの曲は消えます。また、フォーマットすると全曲消去されます。

五十音索引

ア

アップパー.....22

エ

MDR.....51
MDR-10の基本的な操作手順.....7
MDR-10の機能.....6
M./TO DISK13
演奏だけを再生.....36
演奏を録音する.....18

カ

カスタム再生.....36
カスタムプレイ.....36

キ

キーボードパーカッション.....29
曲をコピーする.....45
曲を削除する.....47

ク

繰り返し再生.....39

ケ

鍵盤ごとに録音する.....22

コ

コントロール.....4

サ

再生時のテンポ変更.....43
再生の一時停止.....34
再生の早送り、早戻し.....35
再生を途中で止める.....34

シ

シフト.....5

ソ

ソングコピー	45
ソングセレクト	18
ソングデリート	47
ソングナンバー	18
ソングリピート	39

フ

フォーマット	11
プレイ	5
フロッピーディスクに録音する	18
フロッピーディスクのメモリー残量の確認	30
フロッピーディスクを再生する	33
フロッピーディスクをフォーマット(初期化する)	11
プロテクト	10
プロテクトタブ	10

へ

ペダル	22
-----	----

ホ

ポーズ	34
-----	----

メ

メモリー残量	30
--------	----

リ

リトライ	21
------	----

レ

レコード	5
レジストレーションデータをフロッピーディスクに記録する	13
レジストレーションメニューディスク	12

ロ

録音時のテンポに戻す	44
録音をやり直す	21
ロワー	22

アフターサービスと保証

保証

保証期間は、保証書の裏面の記載により、ご購入から満1カ年です。ただし、現金、ローン、月賦などによる区別は、一切いたしません。また、保証は日本国内でのみ有効といたします。

保証書

保証書をお受取りの際は、お客様のお名前、ご住所、お買上げ月日、販売店名などを必ずご確認ください。無記名の場合は無効になることもありますのでご注意ください。

保証書は、弊社がご購入いただいたお客さまに、ご購入の日から1カ年間の無償サービスをお約束申しあげますが、万一紛失なさいますと、保証期間中であつても実費を頂戴させていただくことになります。万一の場合に備えて、いつでもご提示いただけますように、充分ご配慮のうえで保管してください。また、保証期間が切れましても、お捨てにならないでください。後々のサービスに際しての機種判別や、サービス依頼店の確認など、便利にご利用いただけます。

保証期間中のサービス

1. 保証期間中に万一故障が発生した場合には、ヤマハ特約楽器店、小売り楽器店にご連絡いただきますと、販売店またはヤマハのエレクトーン技術者が直ちに調整・修理にお伺いします。
2. 保証書は、サービスにお伺いした際に今後の製品改良の貴重な資料とするため、技術者がお預かりさせていただきます。お預かりした保証書は、弊社サービスセンター、サービスステーションに送られ、記録した後、直接お客さまにご返送申し上げます。この間、約1週間～10日間程度を要しますが、ご心配なくお待ちください。
3. 遠方に移転される場合は、事前にお買上げ楽器店あるいは弊社サービスセンター、サービスステーションにご連絡ください。移転先におけるサービス担当店をご紹介申し上げますとともに、引き続き保証期間中のサービスを責任もって行うよう手続きいたします。

保証期間以後のサービス

満1カ年の保証期間が切れますと、サービスは有料となりますが、引き続き責任もってサービスをさせていただきます。なお、補修用性能部品(製品本来の機能を維持するために必要な部品)の最低保有期間は、8年となっております。保証期間以後の移転の場合も、保証期間中と同様にご連絡いただきましたら、移転後のサービス担当店をご紹介いたします。

サービスのご依頼

●ご依頼の前に

1. EL-30に電気が来ていることをお確かめください。
2. 電話でのご依頼の際、再度、故障かどうか確認させていただく場合がありますので、ぜひご協力をお願いいたします。

●これだけはお知らせください

- ご住所
- お名前
- ご連絡先電話番号
- ご購入店
- お買上げ年月日
- 機種名(モデル名)
- 症状

●MDR-10の様子を詳しくお知らせください。

1. できれば実際にMDR-10をご使用になっていらっしゃる方が様子をお聞かせくだされば、あらかじめ用意する部品など見当がつき、サービスがスムーズにいきます。
2. ととき調子がおかしくなるような場合は、お手数でもその状態をできるだけ詳しくお知らせください。たとえば、次のような場合です。
 - 夜間だけ音が小さい
 - ある時間だけ使用中に雑音が入る
 - MDR-10を使わなくてもスイッチを入れるだけで雑音が入る。
3. サービス依頼のMDR-10に関する詳細は、保証書をご覧ください。使用部品が製造時期やモデルによって異なることもあります。早く確実にサービスさせていただくために、ぜひお願いいたします。

サービスのお約束について

1. お客さまの関係で、昼間ご不在のお客さまや、留守がちのお客さまは、できるだけお伺いする日時をお約束させていただきます。
2. 万一お約束した日時のご都合が悪くなった場合にはできるだけ早くサービスを依頼されたお店にご連絡ください。
3. お店にサービスをご依頼なされたにもかかわらず、日時が経過してもサービス員がお伺いしない場合には、お手数でも次ページのサービスセンター、サービスステーションまでご連絡ください。責任もって処理させていただきます。

ヤマハ電気音響製品アフターサービス拠点

修理受付および修理品お預かり窓口

- 北海道サービスセンター 〒064 札幌市中央区南十条西1-1-50
ヤマハセンター内
TEL.011-513-5036
- 仙台サービスセンター 〒983 仙台市若林区卸町5-7
仙台卸商共同配送センター3F
TEL.022-236-0249
- 新潟サービスセンター 〒950 新潟市万代1-4-8シルバーボールビル2F
TEL.025-243-4321
- 東京サービスセンター 〒101 東京都千代田区神田駿河台3-4
龍名館ビル4F
TEL.03-3255-2241
- 首都圏サービスセンター 〒211 川崎市中原区木月1184
TEL.044-434-3100
- 浜松サービスセンター 〒435 浜松市上西町911
ヤマハ(株)宮竹工場内
TEL.053-465-6711
- 名古屋サービスセンター 〒454 名古屋市中川区玉川町2-1-2
ヤマハ(株)名古屋流通センター3F
TEL.052-652-2230
- 大阪サービスセンター 〒565 吹田市新芦屋下1-16
ヤマハ(株)千里丘センター内
TEL.06-877-5262
- 神戸サービスセンター 〒650 神戸市中央区元町通2-7-3
ヤマハ(株)神戸支店内7F
TEL.078-321-1195
- 四国サービスセンター 〒760 高松市丸亀町8-7
ヤマハ(株)高松店内
TEL.0878-22-3045
- 広島サービスセンター 〒731-01 広島市安佐南区西原2-27-39
TEL.082-874-3787
- 九州サービスセンター 〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4
TEL.092-472-2134
- 本社 / 技術営業部 〒435 浜松市上西町911
テクニカルセンター ヤマハ(株)宮竹工場内
TEL.053-465-5195

ヤマハ株式会社

北海道支店／〒064 札幌市中央区南十条西1-1-50 ヤマハセンター
鍵盤推進課 TEL.011(512)6114

仙台支店／〒980 仙台市大町2-2-10 住友生命青葉通りビル
鍵盤推進課 TEL.022(222)6149

東京支店／〒104 東京都中央区銀座7-9-18 パールビル
首都圏営業部 鍵盤推進課 TEL.03(3572)3140
関東営業部 鍵盤推進課 TEL.03(3572)3120

名古屋支店／〒460 名古屋市中区錦1-18-28
鍵盤推進課 TEL.052(201)5140

大阪支店／〒542 大阪市中央区南船場3-12-9 心斎橋プラザビル東館
鍵盤推進課 TEL.06-252-7541

広島支店／〒730 広島市中区紙屋町1-1-18
鍵盤推進課 TEL.082(244)3748

九州支店／〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4
鍵盤推進課 TEL.092(472)2152

本社／〒430 浜松市中沢町10-1
楽器営業本部 TEL.053(460)2191
鍵盤営業部
エレクトーン営業課

*住所および電話番号は変更になる場合があります。

エレクトーン®は当社の登録商標です。

YAMAHA
YAMAHA CORPORATION